



Corporate Social Responsibility Report 2010

みやぎ生活協同組合

CSR Report 2010

社会・事業・環境活動についての報告書



CSR Report 2010

Corporate Social Responsibility Report

CONTENTS

〈冒頭〉 理念・ご挨拶

〈第1章〉 食品の安全・安心の取組み

食品の安全を確保していますーその仕組みとは?	1
安全・安心でしかも自給率を高める商品づくりを進めました	4
産直活動はイキイキと確実に広がっています —顔とくらしの見える産直は取り組み始めて40年	7

〈第2章〉 地域社会に貢献する活動

共に学び考えるメンバー活動を進めましたー産直・食生活・食育の活動	9
地域のみなさまとの輪を大切にー福祉活動と子育てを応援	12
くらしの見直しと平和を願って	14
多くのメンバーに共感の輪が広がりましたー国際協力活動を通して	15
文化活動で毎日に彩りを	17
自治体との連携と防災活動	18
社会に貢献する取り組みをすすめました	19

〈第3章〉 事業活動

一人でも多くの方に安心してご利用いただけるように —店舗事業と施設づくり	21
安全・安心な商品やサービスの提供とともにー共同購入事業	22
くらしや教育に役立つ情報を提供しています —共済・サービス事業・学校部／学校用品協会	23
お取引先とのパートナーシップも形成 —お取引先との連携強化と公正な取引の徹底を確実に進めています	24
機関運営とコンプライアンス経営の仕組み	25
2009年度決算概要ー店舗・共同購入・サービス事業全体の決算状況	26

〈第4章〉 環境活動

環境理念・環境方針・環境マネジメントシステム	27
CO ₂ 排出量をはじめて前年度より削減できました	28
メンバー活動による環境保全の取り組み	31
事業活動と環境のかかわり	33
外部環境監査、ISO審査、内部環境監査	35
編集後記	36

理念 Corporate Ideology

「協同組合の定義・価値・原則」

1995年9月に開催された国際協同組合同盟(ICA)100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

- 定義……協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自動的な組織である。
- 価値……協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。
- 原則……協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 【第1原則】自発的で開かれた組合員制 | 【第5原則】教育、訓練及び広報 |
| 【第2原則】組合員による民主的管理 | 【第6原則】協同組合間協同 |
| 【第3原則】組合員の経済的参加 | 【第7原則】コミュニティへの関与 |
| 【第4原則】自治と自立 | |

〈みやぎ生協のめざすもの〉

わたしたちは、協同の力で、
人間らしいくらしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します。

- 「協同」とは、人間と人間が、互いにその人間性を尊重しあい、心をかよわせ、助け合って活動することを意味します。わたしたちは「協同」の力こそ、目的を達成するための原動力であることを確信します。
○「人間らしいくらし」とは、豊かなくらしを支えるモノだけではなく、心の豊かさや健やかさ・ゆとりがあるくらしです。わたしたちは、人間らしいくらしや社会を、与えられるものではなく、自ら創り出す目標として掲げます。
○「平和」は、生活活動の前提でもあり、めざすものです。また、「持続可能な社会」とは、地域環境の保全を考え、限りある資源を、自然との調和を大切にしながら有効に活用していきます。

〈スローガン〉

一人は万人のために、万人は一人のために
平和とよりよき生活のために
みんなでつくる豊かな地域

〈キーワード〉

環境保全、自然との調和
環境・安全・安心そしてより安く

ご挨拶

みやぎ生活協同組合 理事長

齊藤 良子



2009年は、協同組合運動の父といわれる賀川豊彦(日本生協連初代会長)の献身100年の年でした。100年前の経済的困難のなか、救貧から防貧へ、賀川豊彦が貧困問題に立ち向かい社会のしくみをつくる志をもち実践してきた相互扶助の理念は、ICA(国際協同組合同盟)が定めた定義・価値・原則と相通するものがあります。みやぎ生協のCSRは、世界共通の協同組合の定義・価値・原則を再認識し、メンバー(組合員)のニーズと願い、「みやぎ生協のめざすもの」を実現することに事業活動の最大の価値をおき、全力で推進することです。

2009年度、みやぎ生協は、「食品の安全」を確保する仕組みづくり・食料自給率を高める商品政策・「顔とくらしの見える産直」の強化を重点課題として取組みをすすめてきました。重大な事故につながりかねない兆候についてしっかり監視し、日本生協連との商品事故情報共有化のデータベース使用開始で、全国の多発事故や重大な商品事故情報の共有化を図りました。国産原料を使用した商品開発、新たな産直品・地産地消商品の開発は、生産・加工・流通・消費・廃棄の連携強化でほぼ計画を達成し取組みの質も向上しました。また、温暖化防止対策では、CO₂排出量を管理して以来初めて総量で削減できました。今後とも環境負荷の低減をすすめ、低炭素社会の実現に向けての責任を着実に果たしてまいります。

収入が増えない中で公的負担(税金や社会保険料)が増加し、所得が少ない世帯ほどその負担割合が高くなるなど実質的な貧富の差が大きくなり、「格差問題」へとつながることが明らかになっています。このような状況下、2009年度、みやぎ生協のメンバー(組合員)数は2万1千人増加して62万4千人、宮城県内世帯数比での加入率は69%になりました。個人宅配における子育て・高齢・障がいの優遇世帯は1万以上となりました。「ふだんのくらし」を支えコミュニティの持続可能な発展のために、事業と運動を推進してまいります。

みやぎ生協で働く職員はアルバイトの方々も含めて8,000人を超えてます。みやぎ生協の全ての職員が、メンバー(組合員)・お取引各社・地域社会からの信頼に応えられるよう日々の業務に取り組んでいます。東北地方の拠点生協として役割を果たし連帯の質を高めてまいります。みやぎ生協へのみなさまのさらなるご支援ご指導をお願い申し上げます。

みやぎ生協の商品を「安心」して利用できるための生協作りを進めました。



食品の安全を確保しています

その仕組みとは？

重大商品事故の兆候、お申し出の件数

2009年度は、商品関連のお申し出総数が前年よりも大きく減少し18,786件(前年23,811件)でした。その内、解決まで監視した件数が742件。その主な内容は、「異味異臭を感じた(159件)」「危険と思われる異物の混入(150件)」「食べて具合が悪くなった(127件)」などです。お申し出の中で、重篤な健康被害につながったり、事件性がある案件はありませんでした。

減少した主な要因として、案件数増加につながる大きな事故が無かったことや、多発案件が大きく減少したことによります。また、包材異常、異物混入事故も大きく減少しました。

小さな兆候を見逃さず重大商品事故に発展しないように引き続きしっかりと監視をしていきます。

商品事故管理システムを変更しました

商品事故・声データベースをリニュアルし、日本生協連システムとの共同利用に切り替えました。これにより、各種データの検索・集計機能を抜本的に強化し、

監視や情報発信のレベルアップをはかりました。また、日生協COOP商品について、全国の商品事故情報の共有化と、対応のレベルアップをはかりました。



お申し出品のチェックを行う
商品事故対策室の職員



お申し出カードをデータベースに
入力する作業の様子



東北6県の生協で商品事故の情報共有と監視が進みました

商品事故の情報データベースを、東北6県の生協で共有できるしくみを開発しました。これにより、商品事故情報の共有がはかられ、終了するまで監視をする取り組みが前進しました。関連して対応マニュアルも共通で整備し運用を行っています。

中でも対応マニュアルの定義「1」と「2」^(注1)に該当する案件についても品質管理部の関わりを強め、案件が終了するまでしっかりと管理することが出来ました。

(注1)重大商品事故発生時対応マニュアルの定義「1」と「2」
定義1.現在および過去に、食べて具合が悪くなっている場合
定義2.体調は問題ないが、「食べられないような異味異臭」がした場合

食品クライシス対応図上演習など諸訓練の実施

みやぎ生協では、手作り餃子農薬混入事件のとき、事件発生以降の「危機管理対応」に大きな問題がありました。そのことを教訓とし、重大商品事故

発生に備える訓練などを継続的に実施していくことにしています。2009年度は、以下の取組みを実施しました。

■全国の生協が合同で危機管理訓練を実施しました

2009年11月28日に、日本生協連と全国の生協の「合同危機管理訓練・演習」が実施され、みやぎ生協も参加ました。演習の内容は「冷凍ピザにヒ素が混入され、複数地域で死者も発生した」という想定に基づいて次々と「状況付与」が行われ、参加生協はどのように対応するかをその場で協議決定して実施する、というものです。演習を通して、情報が不明確な中での対応、マスコミとの対応、健康被害を受けた方への対応などに次々に迫られ、緊張感ある訓練になりました。また、日本生協連や他の生

協との連携、被害者救済の体制や補償基準などの点で課題があることも分かりました。

■幹部によるマニュアル再確認会議を行いました

常勤理事・部長の全員で、重大商品事故対応や危機管理に関するマニュアル・基準などの最新の内容について再確認し、内容の不備などが無いか点検する会議を実施しました。重大商品事故の兆候に該当するかどうか、具体的なお申し出の事例に基づいて検討し、マニュアルに不明確な部分が無いか、などを点検しました。

『みやぎ生協食品安全マネジメントシステム』の運用を準備しました

2010年度は、「みやぎ生協食品安全マネジメントシステム」運営の初年度になります。

「みやぎ生協食品安全マネジメントシステム」は、現在宮城県の承認を受けている「みやぎ食の安全安心取組宣言」のマネジメントシステムをベースに、ISO22000の内容を取り入れて構築します。決められたことが決められたとおり行われているかの内部監査を含めた検証とメンバーお申し出などにより、問題点・対策・対策の有効性・課題を明らかにし継続的に改善が出来るようにします。

ラベルの貼り間違いをなくす仕組みを全店3部

門(水産・惣菜・寿司部門)に導入し、ラベルの貼り間違いを起こさない手順をつくっています。又、現状の食品衛生の取り組みを系統的に整理して、実験店舗で教育シナリオ・教育評価基準などを整備し、店舗作業者の教育レベルを維持できる仕組みを作り上げ、再教育を開始します。



職員が教育を受けている様子

◆食品の安全に関する詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www2.miyagi.coop/about/safety/>



●食品の安全の取り組み

みやぎ生協は創立当初から、「安心して食べたい」というメンバーの願いの実現を目指し、事業の大きな柱と位置づけ、1995年「食品の安全総合政策」を策定しました。また行政との連携や提言を積極的に行うとともに、安全だけでなく食生活と健康の結びつきをいち早く提唱「食生活提案」も推進しています。



『みやぎ食の安全安心取組宣言』について

2009年度は、新店(市名坂店)1店舗を加えた全48店舗で、『みやぎ食の安全安心取組宣言』に登録した「店舗の衛生管理・物流品温管理・商品表示管理」などの自主基準を遵守しました。

遵守状況については、年4回行なう「取組宣言評価会議」と年1回行なう「内部監査」にて確認し、各部署で隨時、適切に対応を行ないました。



商品検査室の取組み

メンバーに安心してご利用していただくために、食中毒の原因となる各種微生物の検査や産直野菜の残留農薬の検査等を行い、結果を衛生改善や栽培指導に役立てています。また、昨年度実施した

海外製造加工食品の残留農薬検査や生協とお約束した原材料の確認検査を、今年度も外部検査機関で実施しました。

■微生物検査は、11,043検体おこないました。

累計	総検体数	共同購入配達商品	店舗調理加工商品	店舗一般メーカー商品(テナント含む)	COOP商品・コープフーズ東北生産品	取扱事前検査など
検体数	11,043	1,125	3,493	2,774	552	3,099

検査結果から、取り扱い停止の対応を行った商品はありませんでした。
検査結果は、当該部署に報告し衛生管理の向上に役立てました。

■残留農薬検査は、360検体おこないました。

累計	総検体数	産直品	提携品	一般品	モニタリング
検体数	360	286	28	7	39

検査結果から、取り扱い停止などの対応を行った商品はありませんでした。
検査結果は、当該部署に報告し栽培方法などの指導に役立てました。

■海外製造加工食品の残留農薬検査

店舗と共同購入の取扱食品について、「製品での残留農薬検査」に基づく評価を行いました。店舗154品目、共同購入129品目の残留農薬検査結果を確認しました。検査結果については問題ありませんでした。

店舗で継続的に取り扱っている海外製造加工食品のうち今年度検査計画分の一般メーカー商品60品目を、外部検査機関において抜き取りで残留

農薬検査を実施しました。検査結果については問題ありませんでした。

■みやぎ生協が指定した原材料の確認

COOP商品のうち、みやぎ生協が指定した原材料の中で、検査で検証可能な53品目の原材料について、外部検査機関で検査を実施しました。その結果、適切に使用されていることを確認いたしました。

みやぎ生協商品検査室での検査の様子



微生物検査



残留農薬検査

安全・安心でしかも自給率を高める商品づくりを進めました

商品開発の取り組みと商品

■国産原料を主原料とする加工食品を増やしました

国産原料を主原料に国内で生産する加工食品の取り組みをすすめています。店舗では、国産原料 50%以上の加工食品の取り扱いを新たに 1,379 アイテムをスタートさせて、合計 3,375 アイテム（前年より 32 アイテム増加）となりました。2009 年度の国産原料を主とした加工食品の構成比が店舗で 33.7%、店舗では構成比が年々増加しており 1 /3 を越えました。

■地場素材を積極的に使用しました

宮城県や東北地方の地場素材を使用した商品を、食品メーカーと連携した取り組みのなかで、数多く開発しています。

宮城県は農・水・畜産物など、豊富な素材の宝庫です。豊かな素材を使用した商品づくりを進めている食品メーカーが多数あります。こうした“豊かな素材”と“優れた技術”を組み合わせた商品づくりを積極的に推進してきました。

売り場では製造したメーカーブランドとして販売されている商品のなかにも、こうした生協が仲立ちしたネットワークの中で作り出された商品を多数展開しています。

農産、水産、畜産、惣菜、デイリー、加工食品、菓

●地場素材を使った商品

1.「みやぎの地梅酒」

「みやぎの黒糖地梅酒」

角田の「産直梅干し」原料の梅を使い、三本木の蔵元「新澤醸造店」で宮城県産米を 100% 使用してつくった日本酒で漬け込みました。日本酒本来の甘みがあり、まろやかな味に仕上りました。



2.「産直蔵王のたまごと純米酒でつくった元祖たまご酒」

元祖たまご酒

「産直・蔵王育ち生協のたまご」を原料に使い、仙台の蔵元「勝山企業」の清酒をつかって、「たまご酒」を作りました。新鮮な「産直たまご」を原料にしたため、一層、おいしい「たまご酒」が出来上がりました。

3.「産直ささのくら」

大崎地方田尻地区の「産直ふるさと米まさにしき」を原料に宮城県一の蔵元である、「一ノ蔵」で作りました。フルーティーな優しい味に仕上りました。

●惣菜でも「地産原料商品」が次々登場

1.おにぎり・巻寿司

惣菜・寿司部門で使用しているお米は、宮城県産米を 100% 使

子、酒など各分野で地場素材を使用した商品が登場しています。

「素材が持つすばらしさ・おいしさに驚いた・・・」という声もよせられています。優れた素材の新たな魅力を引き出した商品群は、メンバーや素材の生産に関わった関係者から高い評価を得ています。

こうした取り組みは、社会的にも注目されマスコミにも幾度となく取り上げられました。

県産、国産原料を主原料とした商品の取り扱いを引き続き追求します。

■酒部門でも進む地産地消商品の開発

地産地消の取り組みはお酒の分野でも広がっています。産直生産者と地場の蔵元との連携した取り組みとして 2009 年 4 月「みやぎの地梅酒」と 9 月「産直蔵王のたまごと純米酒でつくった元祖たまご酒」、2010 年 1 月には「産直ささのくら」、2010 年 3 月には「みやぎの黒糖地梅酒」を開発、みやぎ生協の店舗（酒類扱い店 39 店舗）で販売を開始しています。

用、おにぎり・弁当はひとめぼれ中心、寿司用の米はひとめぼれ・ササニシキのブランドです。



おにぎり

おにぎり・巻寿司に使用している海苔は奥松島産の海苔を使用しています。味噌焼きおにぎりの味噌は、宮城県産大豆を原料とした仙台味噌を使用したおいしい焼きおにぎりです。

2.はらこ飯

宮城県産米を 100% 使用しています。いくらは、2009 年度は三陸近海で取れた秋鮭の卵に限定しています。はらこ飯は、亘理地方の伝統的郷土料理で、鮭の煮汁で炊き込み、風味豊かに仕上げています。

3.産直蔵王育ちのたまごで作った厚焼玉子

産直たまごを使用した厚焼き玉子は、ひとつひとつ手づくりで、程よい焦げ目のついた、ふっくらした食感が特徴です。調味料を吟味し、だしをきかせたほど良い甘さに仕上げています。日持ち向上のための保存料や、色目を良くする着色料を使わずに作りました。



厚焼玉子

こだわりのCOOP商品

COOP商品は、生協が独自の仕様で作った商品です。1960年代から合成着色料や合成保存料などの食品添加物を使用しない「安全・安心なCOOP商品」として開発してきました。その後、COOP商品は「安全・安心」「安価」「おいしさ」「使いやすさ」など様々な切り口から開発され、日本最大の供給規模を持つ自主開発商品に成長しています。

■みやぎのCOOP商品

みやぎ生協が開発した商品でみやぎの食文化に根ざした商品や使用している原料が限られていることから生産量に限りがあります。原則としてみやぎ生協のみで販売しています。

■サンネット事業連合のCOOP商品

みやぎ生協・サンネット事業連合では、独自のCOOP商品を開発しています。県内・東北地方産の原料や工場による製造品が中心で、地元企業へ生産委託することで、地産地消を推進しています。

東北地方の生協で構成されるコープサンネット事業連合で開発・管理しているコープ商品政策の見直しを継続しています。この間、海外生産商品を廃止し、地元産や国内産など特徴あるコープ商品を重点に開発・管理する方針を進めています。

●コープ東北サンネット事業連合の会員生協

生活協同組合コープあおもり、秋田県北生活協同組合、生活協同組合コープあきた、いわて生活協同組合、生活協同組合共立社、みやぎ生活協同組合、生活協同組合コープふくしま

■日生協のCOOP商品

日生協が独自に開発した商品やサンネット事業連合と日生協が協力しながら開発したコープ商品です。

●その他の部門で登場した地産地消商品

(紹介している商品には季節限定品も含まれます)

【水産】

1.三陸產生炊きさんま甘露煮

気仙沼で漁獲された三陸產生さんまを使用し生原料から炊込んだ生炊きの甘露煮。(生原料が使用できる9月末～10月末限定商品です)



2.女川產生炊き小女子

三陸沖で漁獲された女川港に水揚げされた新鮮な小女子を、少量づつ炊き上げています。煮くずれもなく柔らかい佃煮です。

【畜産】

1.産直若鶏むねカツレツガーリックソルト

産直若鶏むね肉を原材料として作った、フライパンで簡単にできるカツレツです。

2.加工連宮城県産直豚肉使用ソーセージ

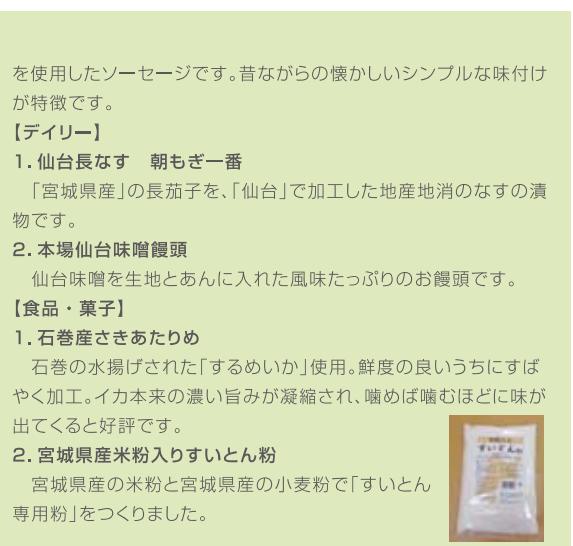
産直豚(ふるさと豚・みちのく豚込み)の端材・規格外の豚肉



暮らしに欠かせないベーシック商品で「確かな品質」と「お求めやすい価格」を追求したシリーズです。2010年4月から順次取り扱っています。

コープベーシック

日生協のCOOP商品



を使用したソーセージです。昔ながらの懐かしいシンプルな味付けが特徴です。

【ディリー】

1.仙台長なす 朝もぎ一番

「宮城県産」の長茄子を、「仙台」で加工した地産地消のなすの漬物です。

2.本場仙台味噌饅頭

仙台味噌を生地とあんに入れた風味たっぷりのお饅頭です。

【食品・菓子】

1.石巻産さきあたりめ

石巻の水揚げされた「するめいか」を使用。鮮度の良いうちにすばやく加工。イカ本来の濃い旨みが凝縮され、嗜めば嗜むほどに味が出てくると好評です。

2.宮城県産米粉入りすいとん粉

宮城県産の米粉と宮城県産の小麦粉で「すいとん専用粉」をつくりました。





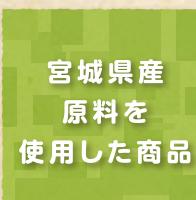
今までも、
そしてこれからも…

●COOP商品

COOP商品は「こんな商品が欲しい」「子どもに安全な食品を食べさせたい」などメンバーのくらしの願いを形にした商品です。味・量目・価格などメンバーの声を反映させ、新商品の商品開発や改善にいかすことを大切にしています。



みやぎのCOOP商品やサンネットのCOOP商品のなかから 産地やおいしさに特にこだわった「おすすめ商品」



■小麦粉「ゆきちから」を使用した商品

宮城県産 原料を 使用した商品

- COOP バイオニアーズ
セレクション
「ゆきちから小麦粉」
900g 280円

「ゆきちから」は宮城県が生産奨励している小麦の品種。直栽培された「ゆきちから」から、パン、中華麺、餃子の皮等に使える「小麦粉」を作りました。



- COOP
「みやぎ育ち ゆきちからラーメン」
(醤油、塩、味噌、冷やし中華)
(1食入り 128円)
- 宮城県産小麦「ゆきちから」を使用し湯伸びにくコシのあるちぢれ麺に仕上げました。



- COOP
バイオニアーズ
セレクション
「ゆきちからの太うどん」
250g 148円
- 宮城県産小麦「ゆきちから」で作りました。コシが強くもちもち感のある乾麺です

■大豆を使った商品



- COOP
「みやぎ育ち仕込み味噌」
750g 498円

宮城県産大豆と米を1:1の割合で仕込んだ十割ごうじみそ。赤穂の天塩仕込み、六ヶ月以上の熟成ですっきりまろやかな味です。



- COOP
バイオニアーズ
セレクション
「みやぎ育ち ゆずポン酢しょうゆ」
300ml 398円

宮城県産大豆・小麦を使用した丸大豆しようゆに、宮城県産の「ゆず果汁」を加え、化学調味料を使わずに仕上げました。



- COOP
「宮城のもめん・きぬ」
350g 118円
- 県産大豆を原料にし「塩田にがり」を使って豆腐に仕上げました。大豆本来の風味を味わえます。

■その他の原料を使用した商品



- COOP
バイオニアーズセレクション
「えごまドレッシング」
200ml 398円

宮城県色麻町産の「えごま」を使いました。ベースに有機大豆で作った醤油を使っています。えごまの香ばしさを生かしたドレッシングです。



- COOP
バイオニアーズセレクション
「みやぎ育ちいちごジャム」
260g 448円
- 宮城県亘理地区で栽培された生食用いちご（栄乙女）を使ったソフトで果肉たっぷりの低糖度ジャムです。



- COOP バイオニアーズセレクション
「みやぎ育ち 白石温麺」
100g×3 168円

宮城県の地場商品「白石温麺」を宮城県産小麦を原料に作りました。粉の練り方にこだわり、気泡を抜き、独特の食感(コシ)を出しました。



- COOP バイオニアーズセレクション
みやぎ育ち石臼挽き八割そば
200g 298円

宮城県産原料のそばと小麦で開発しました。そばの実を甘皮ごと石臼で挽きました(挽ぐみ製法)。そばの香りと甘さが自慢です。

国産原料を 使用した商品



● COOP バイオニアーズセレクション

- 岩手育ち野菜ジュース食塩無添加
190g 88円 6缶パック 498円

岩手県産の7種類の野菜をブレンドしました。ベースのトマトはストレートジュースを使いました(年1シーズンの生産8月)。トマトの香りはなるべく抑え、野菜のフレッシュな香りを引き出し、爽やかな野菜感を強調しました。



● COOP バイオニアーズセレクション

- 山形育ち湯むき白桃シロップづけ
5号缶398円

山形県産白桃を追熟し、湯むきで皮をむきました。白桃の美味しさを生かすためにライトタイプのシロップづけにしてすっきりした味わいです。

◆こだわりのCOOP商品に関する詳細はこちからご覧になれます。

<http://www2.miyagi.coop/products/>

産直活動はイキイキと確実に広がっています

顔とくらしの見える産直は取り組み始めて40年

安全で安心できる産直品とするために多くの取組みを行っています。

みやぎ生協の産直は、「安全でおいしい食品を食べたい」そんなメンバーの声から生まれました。

■産直品は安全・安心そして特別です

省農業です

野菜・果物・米の栽培にあたって、生産者と生協で協議して国が決めている使用してよい農薬の中から、使う農薬の種類を絞り使用量も一般的の半分を目指しています。このことで作業量が増えても、収穫できる量が減っても、全員がやり続けてきたのが、みやぎの産直です。

危害防止のためのチェックを行います

野菜と果物では、「安心くん」という仕組みを取り入れています。この取組みは産直品の安全性確保のために実践しているもので、あらかじめ予想できる危害(異物混入や鮮度不良、農薬事故など)を分析します。その上で生産者自身が、危害が起らないようにするために何をするかという事を点検をしてます。点検する項目は全部で231項目にも及んでいます。出来ていなかつた事を優先順位をつけて実践しています。産直米でも2010年度より開始します。

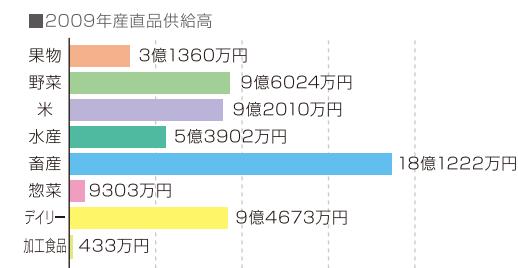
専門家の技術指導を受けています

産直野菜の栽培の技術向上と安全性確保のために、専門の知識を持った先生が生産者を指導しています。産直野菜の栽培の基準を守りながら、収穫量を高め生産者の手取り向上にも貢献していただいている。全国の生協や小売業で高度の知識と経験を持った栽培指導者を置いているのは、みやぎ生協だけです。

残留農業検査を行っています

野菜・果物・米の産直品について304検体・のべ4万8千以上の残留農薬検査を行いました。

●「顔とくらしの見える産直品」供給高



宮城生協の栽培顧問である鎌田先生の指導

■産直活動は環境を守ります

みやぎ生協の全店の農産売場から出る葉くずなどの植物性廃棄物を回収し、みやぎ生協リサイクルセンターで堆肥に加工しています。この堆肥を田尻産直米部会の皆さんに使っていただき「産直ふるさと米」を栽培しました。2010年は6月1日の環境月間に合わせて発売いたします。

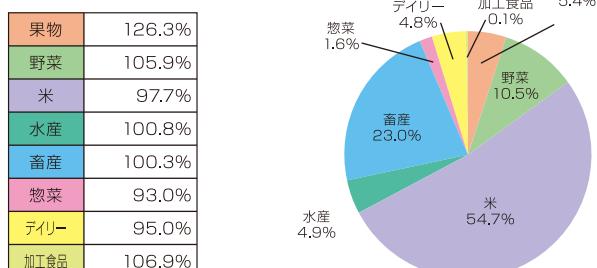
産直ふるさと米協議会では、産直ふるさと米の産地である角田・丸森・田尻で「田んぼの生きもの観察」に取り組んでいます。産直ふるさと米は、すべての生産者が宮城県の農薬・化学肥料節減以上の認証を得ています。農薬と化学肥料を減らすことで、田んぼの生きものが本来の姿に戻っていることをメンバーと一緒に観察して環境を守り学習するきっかけとしています。

田んぼの荒廃を防ぎ食料自給率向上を目指して、産直豚・鶏・卵を生む鶏のエサに飼料用米を配合して食べさせています。田尻では産直豚に輸入のとうもろこしを減らし、飼料用米15%と地元の小麦2%をエサに混ぜて食べさせています。みやぎ仙南と加美よつばの産直豚にも2009年7月より飼料用米を食べさせています。産直卵も2010年4月より卵を生む鶏に飼料用米をエサに添加し始めました。

■産直品の供給高前年比

果物	126.3%
野菜	105.9%
米	97.7%
水産	100.8%
畜産	100.3%
惣菜	93.0%
デイリー	95.0%
加工食品	106.9%

■産直品の供給構成比





今までも、
そしてこれからも…

●みやぎ生協の産直の定義

みやぎ生協では、産直を「生産者と消費者が交流し、学習し、検討を重ねる中で消費者が要望する生産物を生産し、生産者が要望する価格を保障する方法であり、この方法によって、現在の食生活が抱えている問題を克服していくとするもの」と定義しています。消費者と生産者が、対等・平等の立場で提携することから、産消提携活動、あるいは産消直結活動と呼んでいます(一般的の「産地直送」=中間流通排除とは区別されています)



産直品や地産池消商品を原料にした加工品も開発しています

産直大豆を使った「COOP小粒納豆」は、2008年より品種切替えの準備を行っていました。現在使用している「コスズ」は天候の影響を受けて収穫量が大幅に減ることが多々ありました。2010年度の作付けから、食味も良く天候に影響の受けにくい品種「すずほのか」に切り替えることにしました。この切替えで収穫量拡大が見込め生産者の手取り増が予想されます。納豆の試作を何度も行い、食味もたっぷりん良い評価を受けています。

2009年4月には、産直卵を使った「厚焼き卵」、産直野菜生産者が栽培した梅を使った「みやぎの地梅酒」を発売しました。9月には産直卵を使った「たまご酒」、2010年1月には産直ふるさと米を使

った特別純米酒「産直ささのくら」を発売しました。

産直旬菜市場のある店舗のうち8店舗では、生産者が作った漬物・しそ巻き・味噌・お菓子・お惣菜などを販売しています。産直生産者が出荷できない野菜を漬物にしたり、野菜の出荷の少ない冬場に加工品を出荷するなど将来的な生産者の手取り金額アップのために多くの生産者が興味を持ち準備をしています。

ゆで麺の「宮城のうどん」は2010年2月から産直ゆきちから小麦を原料に変更しました。つるつるシコシコしたのどごしが人気です。また「産直米のおにぎり」を期間限定で販売しました。

産直40周年、メンバー・生産者・生協が一緒に学び・利用し・普及します

2010年は1970年に産直が始まってから40周年となりました。「いのちをつなぎ、ひとをつないで40年」を合言葉に、さらに産直活動を発展させてゆきます。産直開始40周年の歴史と産直品の良さを学び、産直活動を普及拡大してゆくことを目指します。

昨年12月に開催された第28回宮城県産直交流集会アピールで次のように確認されました。「生産者は、メンバーがより安心できる商品をつくり、仲間を増やし、後継者を育ててゆきましょう。生協のメンバーは、さまざまな場で産直を話題に

して語り合い、利用者をふやしてゆきましょう。生協は、産直の良さを語ることのできる人を増やし、より多くのメンバーに伝え、産直品の利用量を増やしてゆきましょう。」

2010年より、店長会議・副店長会議では毎月30分以上の産直学習会を開催、店舗でも職員への産直学習を定例化しています。店舗・共同購入の職員の産地研修会を例年の3倍の規模に拡大して産直の歴史と商品の良さを学習しています。産直品の普及に職員が先頭になってすすめてゆきます。



大代店産直旬菜市場



原料の産直大豆

一般的に大豆は大粒のものが多いためですが、納豆専用種の「小粒大豆」があります。現在はコスズという品種を使っていますが、今年からは「すずほのか」というよりおいしい品種を栽培しています。



直産大豆を使った
coopみやぎ小粒納豆

◆顔とくらしの見える産直に関する詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www2.miyagi.coop/sanchoku/>

産直、食生活、食料自給率向上、 くらしの見直しを考え、 自主的なメンバー活動を進めました。

共に学び考えるメンバー活動を進めました

産直・食生活・食育の活動

産地体験と学習活動を通して(2009年度)

■産直ふるさと～～～の旅

7月25日(土)、JAみやぎ仙南角田・丸森コースに27名が参加し、産直梨の畠と産直豚の畜舎を見学。バーベキューの昼食をいただいた後、ジャガイモとトウモロコシの収穫を体験し、産直角田丸森産牛乳の畜舎を見学しました。

7月26日(日)、JAみどりの田尻コースには34名が参加し、ジャガイモの収穫、香辛料で味付けしたひき肉を豚の腸に詰めて燻製するソーセージつくり、バーベキューの昼食をいただいた後、ブルーベリーを摘み取りました。産直品のふるさとで、楽しい一日を過ごしました。

■ぼくもわたしも産直生産者

野菜の種まきから、土寄せ、除草、収穫までを体験する「ぼくもわたしも産直生産者」に9家族、36人の親子が参加しました。生産者からクワの使い方や、苗の植え方などの手ほどきを受けながら、じゃがいもの種芋、ブロッコリー、キャベツ、レタスの苗、大根、人参の種を植付けました。野菜を育てること、栽培の管理、きつい草取り作業とうれしい収穫を体験しました。

◆メンバー活動や食育に関する詳細はこちからご覧になれます。

<http://www2.miyagi.coop/member/shokuiku/>

■産直ふるさと米 田植え・稲刈り体験

5月24日(日)、産直ふるさと米の田植え体験が「JAみやぎ仙南」角田市野田地区で行われ、18家族57名が参加しました。10月3日(土)には稲刈り体験が、田植えと同じ田んぼで行われ、21家族62名が参加しました。

8月の長雨と天候不順で生育が心配されましたが、5月にみんなで植えた稻は順調に生育し、たわわに実っていました。作業の後には新米や角田の食材を使った料理を囲みながら、稻刈りの感想や農作業の苦労などを語り合いました。





■「わが家の味噌作り体験」大豆を育てて味噌を作りました

5月17日(日)、食べものがどう育って食卓にのぼるのか、大豆・お米はどのように味噌の原料になるのか、毎日の食卓に欠かせない味噌を、原料の米・大豆から育てて一年かけて作りあげる「わが家の味噌作り体験」に25家族72名が参加しました。

米は田植えする前の苗を種から家庭で育てるところから始めました。大豆も種まきをして畑の草取りをしながら育てました。「わが家の味噌作り体験」では、作物が育っている場所に共生している田んぼの生き物観察や、生産者から産直品のお話を聞いたり、正月飾り作りと鏡餅作りも体験しました。最後に、育てた大豆を使用して味噌作り実習を行いました。



5月17日 大豆の種まき作業

■産直学習会・学習塾

みやぎ生協では、産直品の生産方法や商品特徴の学習、試食などを通して商品の「良さ」を知っていただき利用に結び付けることを目的に、「産直学習塾」を年間36回開催し827名が参加しました。「産直品のこだわり、商品の良さが分かりました、産直品と一般品を食べ比べて産直品のおいしさが実感した」との感想が寄せられました。



10月28日 産直大豆の学習



1月30日 味噌作り実習



10月～11月 秋のつどい
産直米生産者からの報告

■地産地消のお取引様学習会

初夏と秋のこ～ぷのつどいでは、「地産地消で豊かな地域づくり」をテーマに、みやぎの郷土料理、産直品と、地元食材を使用した加工品の紹介をし、食べ方や買い方が地域の応援やくらしの見直しにつながることをお知らせしました。産直生産者・農協職員・地元お取引様の学習会は、79会場で1,819名が参加して産直品のこだわり、地場生産品の商品紹介、食べ方などをお知らせすることができました。

■地産地消の取り組みを毎月実施しています

みやぎ生協では、宮城県の主催する「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」のパートナー団体として、4月より毎月第一週末を「食材王国みやぎ地産地消の日」として、長年育んできた産直品や優れた県産品の普及拡大に取り組み、第一土曜日には、メンバー・生産者による普及活動を36回実施しました。



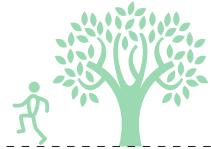
地産地消の日
志津川湾産生かきの普及活動



今まで、
そしてこれからも…

●たべる・たいせつセミナー(2009年～)

みやぎ生協の「新・食生活提案」や「食育」を学習し、バランスよく食べるためのメニューを提案する場として実施。学習を中心とした「学習編」と、調理を中心とした「実践編」があります。



■ 楽しく味わう調理実習

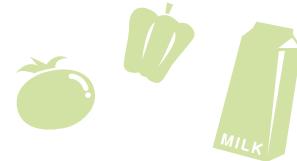
子ども・親子などを対象に、さまざまなテーマでの料理教室を各地で開催しました。ウィズでは、産直品の学習と調理実習を行う「キッズわいわいクッキング」「子どもお魚教室」などを実施したほか、店舗では「親子うどん作り(郡山)」「親子ソーセージ作り(東松島)」「親子でおやつ作り(新田東・塩釜栄町)」など、各地域で工夫をこらした企画が行われました。また、食育NPO主催の親子向け料理教室に共催し、旬の魚介類の調理や学習も行いました。



7月31日 キッズわいわいクッキング



8月5日子どもお魚教室



地産地消で豊かな地域づくりに貢献しました ~食生活・食育~

■たべる・たいせつセミナー

旬の食材を使った調理とみやぎ生協の「新・食生活提案」を学習する「たべる・たいせつセミナー～実践編～」は、春夏秋冬それぞれの季節に応じた食材や商品を使ったメニューの調理やテーマなどが好評で、セミナーで提供したメニューは地域のこ～ぷのつどいなどで広く活用されました。また「学習編」として、「スローフード」をテーマに学習などを行い、140名ものメンバーが参加しました。

5月13日
たべる・たいせつセミナー～実践編～
八巻美恵子さんによる調理指導9月11日
たべる・たいせつセミナー～学習編～
若生裕俊スローフード協会会長のお話

■5ADAY(ファイブアディ)食育体験ツアー

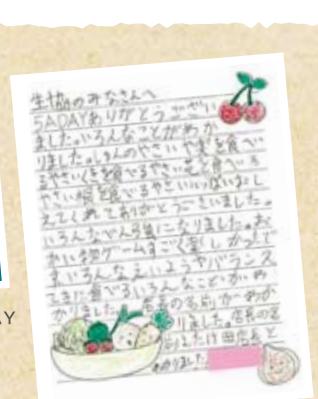
野菜と果物の摂取の大切さを店舗で学習するツアーは、宮城県内14小学校で33回実施され、1075名もの児童が参加しました。仙台市内では教育委員会と一緒に呼びかけをしたことでも開催が広がり、参加した児童からたくさんの感謝のおたよりも寄せられています。

■食のかたりべ

みやぎ生協の食の政策をメンバーが学び、学んだことを他のメンバーに伝える「食のかたりべ」は56名が登録し、こ～ぷのつどいを中心に宮城県内各地で活動しました。かたりべが自分でポスターや紙芝居を作るなど、各自で工夫を凝らしたつどいの展開がされました。

◆2009年度の開催の様子は下記のURLからご覧ください。

<http://www2.miyagi.coop/member/shokuiku/5aday/list/>

9月3日 小学生の5ADAY
食育体験ツアー(若林小)3月11日 メンバーによる
食のかたりべ活動児童からよせられた
お礼のおたより

●5ADAY(ファイブアディ)食育体験ツアー(2005年～)

「1日に5皿分以上の野菜と200g以上の果物を食べて健康に」をスローガンにファイブ・ア・ディ協会が推進している運動で、みやぎ生協では店舗集会室を提供し、学校の授業の一環として実施しています。

地域のみなさまとの輪を大切に

福祉活動と子育てを応援

地域で福祉の輪を広げる活動をしました

■こ～ぶくらしの助け合いの会

「メンバーどうしが困った時はお互いに助け合いましょう」と設立された「こ～ぶくらしの助け合いの会」は2010年9月で25周年を迎えます。2009年度は活動会員が855人、利用会員1,448人、賛助会員391人、活動時間は35,076時間で設立以来最多の時間となり活動は大きく広がりました。活動の中心は高齢者への家事支援、次いで子育て支援となっており、みやぎ生協がめざす「誰もが安心してくらせる福祉のまちづくり」の中心的な活動となっています。



男性会員の活動も増えて
います。



みやぎ生協全体で83名のメイトと
806人のサポーターが誕生しました。

こ～ぶくらしの助け合いとは

こ～ぶくらしの助け合いの活動はメンバーどうし、「困った時はお互いに助け合い、生活を守り育てあいましょう」をスローガンに1985年に設立された会です。主に高齢者の家事援助や話し相手、障がいの方の生活援助など自立を支援しています。また子育てのお手伝いなどにも取組んでいます。メンバーならどなたでも会員になれ、会員は活動会員、利用会員、賛助会員いずれかです。いずれも入会金1,000円、年会費1,000円です。

■認知症サポーター養成講座

助け合いの会の活動の中で「認知症」「認知症では？」と思われる会員への支援が増えています。会の活動に役立てようと養成講座の開催を進めています。

講座は宮城県や仙台市を通じ講師派遣の協力を得て20会場で開催しました。これまで484人のサポーターが誕生しています。また、初めて職員対象に認知症キャラバン・メイトを養成し、83人のメイトと322人のサポーターが誕生しました。

■ふれあい活動

- 「福祉まつり」は、福祉共同作業施設とメンバー・地域住民との交流を目的に、塩釜杉入店、亘理店、蛇田店、八木店、こ～ぶくらしの家緑ヶ丘にて開催し、メンバーとボランティアなど2,100人が参加しました。
- 高齢者と一緒に楽しいひと時を過ごす「ふれあいお食事会」は、桜ヶ丘店、松島店、セラビ白石店で行われ、403人が参加しました。また、気軽にお茶を飲みながら行われている「ふれあいお茶会」は、10会場で687人のメンバーが参加しました。
- セラビ幸町店にあるふれあい製品のお店「はあと」は、知的障がい者の社会参加を目的とした「仙台市知的障害者販売業務訓練事業」で、年間300人がボランティアとして協力しました。
- 福祉共同作業施設とメンバーの交流は、19回で330人参加、産直まつり等への出店は11施設となりました。



福祉まつり(みんな友だち)



お茶会(利府店)

■こ～ぶふれあい便

高齢や体が不自由な方、家族の介護や産前産後、子育て中で買物に行きたくても行けない方のために、食料品や日常必要な商品をお届けし、その生活を支援しています。現在10店舗で実施しており、146人の会員が利用しています。

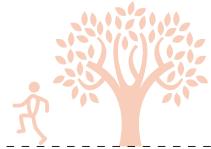
実施店:
西多賀店・黒松店・桜ヶ丘店・
富沢店・幸町店・国見ヶ丘店・
六丁の目店・鶴ヶ谷店・柳生
店・八木山店
会費:月額1,050円



こ～ぶふれあい便

◆福祉活動に関する詳細はこちからご覧になれます。

<http://www2.miagi.coop/member/fukushi/>



みやぎ生協は子育て世代を応援しています

●子育てふれんず

子育て世代のメンバーが作成し、興味関心のある内容で、ニュースを届けます。子育て真っ最中の編集委員が、知恵や工夫を出しあうので旬な情報が満載です。子育てふれんず会員は2,400名になりました。



子育てふれんず編集委員



子育てふれんずニュース



子育てひろば



子育てひろばスタッフ



●子育てひろば

子育て中のみなさんが「ほっと一息」つける場所。それが「子育てひろば」です。スタッフは、お子さん連れや子育て終了のメンバーなど、ボランティアが運営しています。25会場で開催され、親子1,425組3,122人の参加がありました。



マミースタッフ



マミーサポートルーム



新田東店子ども企画

●子ども企画

新田東店内と名取西店で開催中の「子ども企画」は、親子のふれあいだけでなく、ママ同士の出会いの場として喜ばれています。

◆子育てに関する詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www2.miyagi.coop/member/kosodate/>



今まで、
そしてこれからも…

●子育てひろば(2001年～)

子育てひろばは、2001年にスタートした「親子あそびば」から、運営の変更を行い、2007年度に「子育てひろば」として再スタートしました。2001年度から2009年度まで、親子14,910組、32,218人の参加がありました。

くらしの見直しと平和を願って

くらしの見直し活動と消費者被害を未然に防ぐために
消費者力を高める活動を行いました。

■くらし見直し活動

自分のくらしを見直し、考えることのできるメンバーを増やすため、共済センター・ライフプランニング活動と連携し、『くらしの見直し学習会』入門篇と子ども対象の『おこづかいゲーム』を開催しました。

■くらし見直し学習会



8エリアで開催127名が参加

■おこづかいゲーム



6エリアで開催76名が参画しました

■消費者力を高める活動

消費者トラブル防止には、一人ひとりの消費者力アップが大切です。楽しく学びながら消費者力を高めるゲーム形式の講座や、(財)日本消費者協会の消費者力検定に取り組みました。

■ゲームで学ぶ悪質商法対策



14会場で開催212名が参加しました

■消費者力検定



62名が受験しました。

◆くらしに関する詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www2.miyanagi.coop/member/heiwa/>

平和活動

メンバーの募金による「ヒロシマ平和行動」「沖縄戦跡・基地めぐり」への代表派遣や核兵器廃絶を願い「ビキニ水爆実験被災55年核兵器のない世

●沖縄戦跡・基地めぐり

親子1組大人8人(3/31~4/2)



魂魄の塔に献花しました



沖縄戦跡・基地めぐり報告会

●ヒロシマ平和行動

親子5組(8/4~6)が参加



平和公園での碑めぐり



平和祈念式で「平和の誓い」を宣言する子どもたち

●第五福竜丸展 (10/8~22 ウィズ見学者1000人)

&記念講演会 (10/9 ウィズ参加者122人)

1954年、ビキニ環礁における米国の水爆実験で第五福竜丸が被災し、乗組員1人が死亡しました。この事件で「死の灰」の怖さが知られ、原水爆実験禁止運動が世界中に広がりました。



展示を見る見学者



展示を見る見学者



講演する安田和也さん
(第五福竜丸平和協会事務局長・学芸員)

いつも当たり前にしていることが
平和でなければ
できないことなのだと
気付きました。

平和募金は共同購入注文書と店舗募金箱の設置、書き損じはがきの回収で行われています。2009年度は143万円の募金が寄せられました。



秋のこ~ぶのつどいで学習



メッセージカード2824枚を
8大使館と日本政府に届けました。



パキスタン大使館へ
メッセージカードを届ける理事

多くのメンバーに共感の輪が広がりました

国際協力活動を通して

ICA(国際協同組合同盟)アジア太平洋地域生活協同組合研修生を受け入れました

7月25日～8月8日までの日程でインドから2名、フィリピンから1名の合計3名の研修生を受け入れました。

研修生たちはみやぎ生協の事業活動(店舗・共同購入・商品政策・販促活動等)やメンバー活動について学んだ後、研修生は母国に帰りみやぎ生協で学んだことを実践しています。フィリピンルソン島のアブラ多目的組合より参加したベリンダさんは早

速「マイバッグ」を導入しました。

みやぎ生協では1994年度より毎年ICAアジア太平洋地域委員会より選抜された研修生の受け入れています。これまで受け入れた研修生は54名になりました。



石巻川開きにも参加しました(8月2日)

国際協力(フェアトレード)に取り組みました

共同購入では、1999年にフェアトレード商品の取り扱いを開始し、以来、衣料品、服飾雑貨、食料品などを中心に、年に5～6回、フェアトレード商品をご案内しています。

2009年度は、さらに多くのメンバーに「フェアトレード」を広げるため、学習と商品検討の会を2回にわたり開催し計78名のメンバーが参加しました。

参加者からは、「フェアトレード」がはじめて良くわかりました」「考え方賛同します」「商品をじかに見られて良かった」「自分の声が活かされるのはう

れしい」など感想が寄せられました。

多くのメンバーに共感の輪を広げ、商品を通してできる国際協力「フェアトレード」に今後も取り組んでいきます。



フェアトレード商品検討会の様子



ハンドメイドが魅力のフェアトレード商品
「フェアトレード」とは＝発展途上国の产品を継続的かつ公正に取引することで、生産者の経済的な自立を支援する仕組みです。「公正貿易」あるいは「草の根貿易」と訳されています。

ユニセフ活動

ユニセフ(国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。その活動は「平和とくらしを守る」という生協の基本理念に一致することから全国の生協で取り組まれており、みやぎ生協では1979年よりユニセフ活動を支援しています。

2009年度は、こ～ぷ委員会を中心に多くのメンバーからの募金協力がありました。「こ～ぷのつどい」での「募金回収袋」による、はんメンバーの募金活動や、店舗や共同購入地域でのメンバーまつり等での募金活動やユニセフ・グッズの販売、「ハンド・イン・ハンド」「カレンダー募金」など延べ68エリアで年間を通してユニセフ活動が取り組まれました。

リサイクルの先がけとなった牛乳パック回収の売却益の全額募金や、お取引き様による「ユニセフ募金応援キャンペーン」(2009年度60社)も継続してご協力いただきました。

また、自然災害も多く、秋にはフィリピン台風・サ

モア地震津波・スマトラ沖地震、1月にはハイチ地震緊急募金活動に店舗・共同購入・こ～ぷ委員会を中心で積極的な取り組みを行いました。

ユニセフ活動とは

ユニセフ(国際連合児童基金)は世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。生協が初めてユニセフ支援に取り組んだのが「バケツ一杯の水を送ろう」の運動で、あれから30年が経ちました。みやぎ生協のユニセフ活動は、1979年(国際児童年)から支援をスタート、1983年には、みやぎ生協組織部(現生活文化部)内にユニセフ募金宮城事務局を開設、1995年には全国5番目の日本ユニセフ協会宮城県支部設立に尽力しました。



ハンド・イン・ハンド街頭募金活動に
役職員やメンバーが参加(12月20日)



ユニセフ募金贈呈式
みやぎ生協沼倉優子副理事長から、
ユニセフ宮城県支部
清水智子専務理事へ贈呈(4月10日)

日本ユニセフ協会大使アグネス・チャンさんよりメッセージが届きました

みやぎ生協では、1979年から、開発途上国の飢餓と貧困、特に子どもと母親の命を守るためにユニセフの活動を支援してきました。この間の支援に対して、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんから、

感謝のメッセージが届けられました。みやぎ生協は、メンバー、お取引先様と一緒に、今後もユニセフの活動を支援してまいります。引き続きのご協力をお願いいたします。

みやぎ生活協同組合の組合員のみなさまへ

世界の子どもたちのために、いつもユニセフの活動を支援してくださるコープの皆様、本当にありがとうございます。

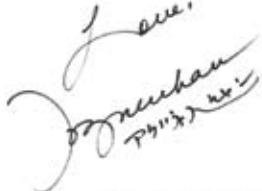
皆様から寄せられましたユニセフ募金は、子どもたちの命を守る予防接種や、失明を防ぎ病気への抵抗力をつけるビタミンAの提供、村にトイレや井戸を作り衛生習慣を広めるための活動、全ての子どもが学校に通えるようにするための教材の提供や先生の研修、暴力や虐待などから子どもを保護する活動、HIV/エイズの影響から子どもを守るための活動など、世界150以上の国と地域で大切に使われています。



©日本ユニセフ協会／2010／Kaneko

ユニセフは2009年9月、世界の5歳未満児の死亡数が年間890万人にまで減ったことを発表しました。1990年には、年間1,250万人が5歳の誕生日を迎えることなく命を落としていたことを考えると、1日あたり1万人削減されていることになり大きな進歩です。1990年から2000年までは年間平均1.4%で5歳未満児の死亡数が減少しましたが、2000年から2008年では年間平均2.3%のペースで減少してきています。これには未来への『希望』が見えます。

みなさまのご支援のお陰で、途上国の子どもたちの状況は少しずつ良くなっています。更なる前進を図るために、これからも、わたしと一緒にユニセフの活動を応援していただけますよう、心よりお願い申し上げます。



日本ユニセフ協会大使
アグネス・チャン

■ユニセフキャンペーン募金にご協力いただいた お取引先 2009年4月～2010年3月

UHA味覚糖(株)、アイシア(株)、アサヒフードアンドヘルスケア(株)、(株)阿部善商店、一正蒲鉾(株)、岩塚製菓(株)、江崎グリコ(株)、エスビー食品(株)、(株)大井川茶園、大塚食品(株)、小川珈琲(株)、カゴメ(株)、加藤産業(株)、カバヤ食品(株)、亀田製菓(株)、カルビー(株)、カンロ(株)、キッコーマン食品(株)、キューピー(株)、銀河フーズ(株)、栗山米菓、(株)クレハ、(株)湖池屋、コーセーコスメポート(株)、小山産業(株)、佐藤食品工業(株)、(株)サンエス、三幸製菓(株)、ジェイティ飲料(株)、(株)仙水ディリー、第一三共ヘルスケア(株)、大王製紙(株)、東洋水産(株)、(株)富島食品、(株)永谷園、(株)ナシオ、(株)なとり、(株)成田食品、ニコニコのり(株)、日清オイリオグループ(株)、日清食品(株)、日清フーズ(株)、日本水産(株)、日本ハム東販売(株)、ハウス食品(株)、ピジョン(株)、ブリマハム(株)、(株)フレンテ・インターナショナル、(株)ポッカコーポレーション、丸大食品(株)、(株)マルハニチロ食品、(株)

ミツカン、三本コーヒー(株)、明治乳業(株)、(株)桃屋、森永製菓(株)、森永乳業(株)、ヤマサ醤油(株)、雪印乳業(株)、理研ビタミン(株)

50音順・敬称略

■2009年度ユニセフ募金額

(単位:円)

メンバーからの一般募金	6,826,804
お取引先様キャンペーン募金	1,727,085
牛乳パック回収による募金	2,314,190
ペットボトルキャップ回収による募金	3,108
自然災害募金(フィリピン・サモア・スマトラ)	1,215,260
ハイチ地震緊急募金	3,539,521
合 計	15,625,968

◆ユニセフに関する詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www2.miyanagi.coop/member/unicef/list/>

文化活動で毎日に彩りを



こ～ぶ文化鑑賞会

「文化で彩る素敵なくらし。“心に休日”あたえた
い。」をコンセプトに、お芝居、バレエ、コンサート、
伝統芸能など色々なジャンルの生の舞台を、会費
を積み立て観るのがこ～ぶ文化鑑賞会です。会員
数は、仙台5,057名、石巻831名になりました。

仙台は「レ・ミゼラブル」のほか2例会、石巻では
「能と狂言」のほか2例会のほか、宮城県文化振興

財団や放送局など他団体と一緒に特別例会5回を開催しました。

こ～ぶ文化鑑賞会とは

「心に休日を与える」を合い言葉に、優れた舞台芸術にふれる
機会をつくり、心豊かな生活を送りたいという願いを叶えるため
1987年設立しました。会費を毎月積み立て年間約4回の生の舞
台を観る会でお芝居、バレエ、コンサート、伝統芸能など色々なジ
ャンルで企画を行っています。



仙台例会 現代狂言Ⅳ
狂言とコントが結婚したら

特別例会 KOBUDO
—古武道ーコンサート

仙台例会 クミココンサート2009
石巻例会 能と狂言「安達原」

17

仙台例会

■第79回例会

ミュージカル レ・ミゼラブル(4回公演)

◎4月24日・25日 東京エレクトロンホール宮城

■第80回例会

クミココンサート2009(5回公演)

◎10月13日～17日 仙台市民会館

■第81回例会

現代狂言Ⅳ 狂言とコントが結婚したら(5回公演)

◎1月26日～28日 仙台市民会館

石巻例会

■第44回例会

能と狂言「安達原」「箕被」

◎7月2日 石巻市民会館

■第45回例会

林家正蔵と佐山雅弘のジャズ落語

◎10月2日 石巻市民会館

■第46回例会

フォークフェスティバル in 石巻

◎1月19日 石巻市民会館

特別例会

■アコースティックナイト in 仙台

◎6月13日 仙台市民会館

◎主催:こ～ぶ文化鑑賞会、TBC東北放送、ノースロードミュージック

■けんみん1,000円コンサート「トリオ・リベルタライブin Sendai」

◎9月15日 東京エレクトロンホール宮城

◎主催:こ～ぶ文化鑑賞会、宮城文化振興財団、TBC東北放送、宮城県

■細雪

◎11月3日・4日 東京エレクトロンホール宮城

◎主催:こ～ぶ文化鑑賞会、河北新報社、仙台放送

■青島広志のゆかいなクリスマスコンサート

◎12月13日 東京エレクトロンホール宮城

◎主催:こ～ぶ文化鑑賞会、宮城文化振興財団、KHB東日本放送、宮城県

■KOBUDO—古武道ーコンサート

◎3月15日 仙台市青年文化センター シアターホール

◎主催:こ～ぶ文化鑑賞会

◆文化鑑賞会・ウィズセミナー＆ウィズ教養講座に関する詳細は
こちらからご覧になれます。

<http://www2.miyagi.coop/member/kanshokai/>

ウィズセミナー

ウィズセミナーは、年間30講座を企画し、のべ
1,351名が受講しました。環境セミナーの春の里
山観察会や環境にや
さしい手作り工芸雑
貨、産直品を使ったキ
ムチやみそ作り、今年
新しく企画した認知
症サポーター養成講
座など好評でした。



産直野菜を作る佐藤さん家のキムチ

ウィズ教養講座

ウィズ教養講座は、年間128講座を開講し、のべ
4,414名が受講しまし
た。中でもパン作りや着
物リメイク、「おやこで
パン作り」や「おやこお
やつタイム」のように親
子で作って食べるコー
スが好評でした。



親子でパン作り

自治体との連携と防災活動

災害に備えて自治体と連携して行動する準備を進めています

災害時、県や各市町村からの要請に応じて生活物資や食料品を確保し供給する「応急物資の供給協定」や店舗の駐車場などを「一次避難所と提

供する協定」の締結、県内各自治体が行う防災訓練にも積極的に参加しています。

南三陸町との協定締結

2009年9月1日、南三陸町と「災害時における応急生活物資供給等に関する協定」を締結しました。締結式には、南三陸町本庁大会議室において南三陸町 佐藤 仁町長、みやぎ生協 斎藤 昭子理事長、他が出席しました。

これにより、みやぎ生協の県内自治体との災害時の物資供給協定は、21自治体となりました。
(※2010年4月15日に気仙沼市とも協定を締結しました。)



南三陸町との協定締結

総合防災訓練の参加

宮城県主催の「9.1総合防災訓練」が実施され、今年は登米市開催もあり、地元である加賀野店・迫支部職員と宮城県生協連とともに「救援物資輸送訓練」に参加しました。



総合防災訓練の参加



多賀城市との
屋上駐車場の一時使用
確認書締結



コープ
ぼうさい塾

チリ地震津波の物資提供

2010年2月27日(土)、チリ中部沖で発生したチリ地震による2月28日(日)の津波では、4市1町の自治体から要請のあった避難民の食事・飲料などについて、物資協定に基づき対応しました。

18

多賀城市との屋上駐車場の一時使用確認書締結

2009年3月27日、多賀城市と「みやぎ生協高砂店屋上駐車場の一時使用に関する確認書」を締結しました。大規模災害が発生し、又は発生するおそれがある場合、住民の一時待機や避難

場所として、高砂店の2階駐車場を使用するというものです。なお、2/28チリ地震津波の際、すでに締結していた大代店は一時避難所としてその役割を果たしました。

「コープぼうさい塾」の開催など、地域で防災を考える取組みが進んでいます

12月18日に開催された「コープぼうさい塾」では、エリアリーダー、こ～ぷ委員長、こ～ぶくらしの助け合いの会コーディネーターなど38人が参加し、日ごろの備えの必要性や、地域とのつながりの大しさを、ワークショップを通して真剣に学んでいました。また学習を活かし、帰ったら家族

と連絡方法を確認しあう、街を歩いてみる、災害伝言ダイヤルを使ってみたいなどの感想も多く出されました。このほかにも、こ～ぷ委員会を中心に、行政の出前講座を利用した学習会や、災害伝言ダイヤル(171)の体験利用、防災グッズを実際に見て試してみる取組みが進んでいます。



今まで、
そしてこれからも…

●コープぼうさい塾(2007年～)

「コープぼうさい塾」は、自分の住んでいる地域の避難箇所や病院、助けを必要とする人などを地図に書き込み、災害が発生した場合にどのように行動し、避難すればいいかシミュレーションし、実際の災害に備える図上(机上)訓練です。

社会に貢献する取り組みをすすめました

「こ～ぶほっとわ～く基金」

1992年、みやぎ生協10周年設立を記念して創設され、5億円の果実(利子)に相当する金額を宮城県内で地域福祉向上のための活動を行っている団体や個人を支援・育成するために助成しています。今年度は24団体に352万円の助成を行い、開始以来292団体へ5,558万円の助成になりました。

■2009年度上期 助成数: 11団体 助成金162万円

1	沖縄三線同好会 「介護福祉サービス事業所へのボランティア演奏活動」
2	心友会 「石越町内の人暮らし高齢者と住民のふれあい事業」
3	大崎東部更生保護女性会鹿島台地区 「ボランティア活動時に着用するシャンパー製作費」
4	吉成にこにこクラブ 「介護予防運動のための機材等の購入」
5	特定非営利活動法人ばざーる太白社会事業センター 「恐竜やま高次脳機能障がい者交流会「クリーン・ミッション」」
6	子育てサークル「たっち」 「地域内連携での子育て世代交流・情報交換の活動」
7	宮城県麗人会 「心のケアのひとつのビューティーケアの普及活動」
8	特定非営利活動法人一隅舎 介護保険サービス以外の自主事業としての宿泊場の整備
9	パディントン文庫 「説書を通して表現し、つながり合う喜びを育てる事業」
10	知的・発達・精神障害者の就職支援『つくnet.』 「環境推進型エコ名刺印刷工房事業」
11	ボランティアグループTZ02 「タオル人形で笑顔あふれるまちづくり事業」



9月19日 こ～ぶほっとわ～く基金贈呈式

■2009年度下期 助成数: 13団体 助成金190万円

1	こども映画館クラブ 「移動映画実施の際、使用する機材の新規購入」
2	ひろせ合唱の会 「第11回ハーモニーコンサートinひろせ」の開催
3	方言を語り残そう会 「名取方言かるた」の作成
4	NPO法人 ミューズの夢 「NPO法人ミューズの夢 サマーデイキャンプ」
5	共同連宮城大会実行委員会 「第27回共同連全国大会(宮城)開催事業」
6	特定非営利活動法人 ドリーム・ゲート 「大規模災害時に事務所を重度障がい者の避難所として活用するための準備」
7	WRAP研究会inせんだい 「WRAP(元気回復行動プラン)に関する人材育成」
8	特定非営利活動法人 せんだい杜の子ども劇場 「ママパパライン仙台電話受け手ボランティア養成及び広報事業」
9	NPO アトリエ虹色 たまご 「虹たま教室」年齢、性別、障がいを問わず造形に親しむ機会作り
10	特定非営利活動法人アクティブ 「地域活動推進センターにおける地域との交流活動」
11	佐々 禮子 「スターべアレンティング講座」の開催
12	栗原市精神障害者を支援する家族会及び賛同する団体・個人の連合会(栗家連) 「機関紙発行及びフォーラム」栗原市内の精神障がい者の交流事業
13	みやぎ手話工房フロムハート 「日本手話セミナーPARTⅢ」の開催

2009年度 福祉関係受賞者

こ～ぶくらしの助け合いの会活動をはじめとする福祉活動の功績に対して、平成21年度の宮城県および仙台市社会福祉協議会会长表彰、仙台市長感謝状を受賞しました。



■仙台市市長感謝状

近藤あけみ
(こ～ぶくらしの助け合いの会コーディネーター)
庄司みよし
(こ～ぶくらしの助け合いの会相談員)
針生登美子
(こ～ぶくらしの助け合いの会コーディネーター)



■仙台市社会福祉協議会 ボランティア功労賞

鈴木洋子
(こ～ぶくらしの助け合いの会コーディネーター)



■宮城県社会福祉協議会 ボランティア功労賞

神成幾子
(こ～ぶくらしの助け合いの会コーディネーター)

中国・九州北部豪雨義援金

7月19日から26日にかけて山口県などの中国地方と九州北部への豪雨により被災された方々の生活再建のため義援金活動に取り組みました。

募金額は1,871,352円となりコープやまぐちを通して山口県に、福岡県生協連を通して福岡県に935,676円づつお届けしました。

市民協働子育て広場事業&子育て支援センター事業を支援しました

仙台市が実施する「市民協働子育て広場事業」に店舗集会室など7会場を提供することを締結し、7月より八木山店・六丁の目店、9月より西多賀店、12月より南小泉店で活動がスタートしました。また、子育て支援センター事業へも協力し、塩釜杉の入店・柳生店で場の提供を行い9月からスタートしました。



八木山店(子どものひろば)



南小泉店(どんぐり)

みやぎ21健康プランに賛同しました

宮城県では、みやぎ21健康プランに基づき、「健康づくり・野菜をもっと食べよう!キャンペーン2009」と題し、栄養士会と協働で栄養教育活動、体験型の啓発キャンペーンを実施しています。

みやぎ生協では、2008年に続き2009年も協力、11月7日(土)亘理店で栄養・食生活相談や簡単野菜レシピ紹介などのキャンペーンイベントを実施しました。



11月7日
健康づくり・野菜をもっと食べよう!
キャンペーン2009

健康サービスを開始しました

みやぎ生協は、先進予防型健康社会創成仙台クラスターと共同で、生協メンバーをはじめとする地域住民の健康増進を応援する健康サービスを開始しました。

メンバーに向けたイベントを通した健康へのアプローチとして10月・11月の2回「ノルディックウォーキング」や11月にみやぎ生協5店舗で「健康度チェックPlus」を実施しました。今後もメンバーの健康意識と知的クラスター事業との連携を具体化していく予定です。



10月23日 ノルディックウォーキング

NPOの活動を支援しました

みやぎ生協での活動経験を活かし社会的な課題を解決しようと食育1つ、子育て支援3つの合計4つのNPOが活動しています。活動しているNPOには、場の提供や学習会の講師依

頼などを行い、活動を継続して出来るよう支援をしています。また、NPO法人ふうどばんく東北AGAINを、設立準備時から支援するとともに、倉庫スペースの無償提供を行っています。

●子育てを応援する企業として認定されました。

みやぎ生協は8月27日、次世代育成支援対策推進法第13条に基づく「基準適合一般事業主認定」の交付を、宮城県労働局長から受けました。

みやぎ生協では次世代育成支援対策推進法*に基づき第1回の行動計画を策定し、2005年3月21日～2008年5月20日までの3年間において、策定した行動計画を実施し、計画に定めた目標を達成、今回第1回の行動計画の実施について評価を受けました。「子育てを応援する企業」として今後も役割を果たしていきます。

*次代の社会を担う子供たちの健全な育成環境の整備を目的とした法律



認定マーク「くるみん」



くるみん贈呈式

メンバーの要求を実現する事業活動を進めました。

一人でも多くの方に安心してご利用いただけるように
店舗事業と施設づくり

メンバーのくらしを応援しました

みやぎ生協は、県内48店舗で営業、メンバーの食と暮らしを豊かで便利にする商品やサービスを提供しています。消費低迷・低価格競争・厳しい経済状況の中、店舗では「いいコープの日」、「ワンデービッグバーゲン」、「火曜市」、「シニアメンバー」などメンバーの暮らしを支える企画を実施しました。特に高齢者(65歳以上)支援として立ち上げたメンバーサービス「シニアメンバー」の登録メンバー数は3万を超えており、大変好評を得ています。また、授産施設商品の取り扱いや認知症センター育成・盲導犬セミナー・手話学習・AED救命講

習などの各種講座の受講を進めるなど、社会貢献の分野でも活動しています。一方、食の安全の確保や食料自給率向上に向け、毎月1回「地産地消の日」の実施や「産直旬菜市場」の強化など、産直品・国内産商品・コープ商品の利用拡大に取り組み、メンバーに支持され、選ばれる売り場作りを進めています。また、生協としてもっとも早くエコポイントの交換事業者として登録、多数の申請がありました。新店は6月11日環境対応を推進した店舗として市名坂店を開店しました。

誰にでも安心でやさしい店舗施設づくりをすすめました

正面をガラス面とし自然採光を活用した、明るい店内の様子が視認できる店づくりを、市名坂店で実現しました。さらに「ひろびろトイレ」を設置、「ひろびろトイレ」は、車椅子を利用した方はもちろんのこと、人工肛門・人工膀胱利用者(オストメイト)のパウチなど洗浄用具の設置、大人のオムツ替えの出来る介護用ベットの設置、子ども連れの利用者の配慮からベビーチェアを併設して多目的に使用していただける空間としました。18店舗設置普及しました。

■点字付内部レイアウト板の設置

市名坂店の「ひろびろトイレ」「お客様用トイレ」の入口外部に、点字付の内部レイアウト案内板を設置しました。(合計18店舗で設置)市名坂店で火災時の避難誘導として、売場避難口誘導灯に音声及びフラッシュライト付を採用。聴覚障がい者や視覚障がいの方に音声とフラッシュライトで出口をお知らせします。



市名坂店の駐車場



市名坂店では、バリアを極力排除した店づくりを行ないました。

「耳」マークへの対応

店舗のレジ部門で聴覚障がいの方が持参する「耳マーク」への対応を2006年2月からスタートしました。

「耳マーク」は、聴覚に障がいを持っていることを相手にお知らせするマークです。また、よりコミュニケーションが取れるよう対話カードを用意しました。

◆店舗事業に関する詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www2.miagi.coop/shop/>

安全・安心な商品やサービスの提供とともに 共同購入事業

みやぎ生協の共同購入は、県内10支部から商品の宅配をおこなっています。安全・安心な商品やサービスの提供とともに、共同購入らしい商品の企画（配達されることで便利な商品、豊な情報を提供す

ることで良さが伝わる商品、ふだん買えないおいしい商品）を強化し、家族のだんらんがはずむことを目指しています。

27,352人のメンバーが新たに 共同購入に加わりました

共同することでメリットを生み出す「はん」「なかよし個配」に加え、ニーズの多い「個人宅配」を中心に新たな利用者が増えました。

より利用しやすい個人宅配を実現するため3種類の配達手数料優遇サービス（子育て優遇、障がい者優遇、高齢者優遇）を継続し、6,000人のメンバーに利用していただける状況をつくることができました。今年は更に介護優遇サービスを実施します。



一人暮らし高齢者の個配メールサービス (安否確認)が開始しました

離れて暮らす息子さん、娘さん（その他ご家族）へ個人宅配時の在宅状況を毎週メールでお知らせしています。あらかじめお知らせするメールアドレスを登録頂き、既に35名の登録者になりました。メールサービスは、ご希望のメンバーなら無料で誰でも登録することができます。一人暮らしの高齢者が増加していることから2010年度は積極的にお知らせを致します。

石巻市の離島・田代島で 共同購入がスタートしました

11月26日、石巻市の離島・田代島で共同購入の配達がスタートしました。以前より田代島にお住まいの方から共同購入を利用したいという要望が寄せられていました



連絡船で田代島へ

が、配達条件等で見送りをしていました。今回、島内での受け渡し方法や、船便の運賃等の条件を整えて、配達が可能になりました。商品の受け渡しには島内在住の濱温（ハマユタカ）さん（県離島振興推進協議会理事）と連絡船・網地島ラインさんの協力をいただきました。これで共同購入を利用できる県内の離島は、石巻市の網地島と田代島（約30人・鮎川港から連絡船に積み込み）、気仙沼市の大島（約215人・カーフェリーで生協車両を持ち込み）に続いて3島目になります。配達にあたってはメンバーの賛同や協力をいただいている。

利用しているメンバーからは「買い物にかかるお金や時間が省けます」「ほとんどの生活必需品が揃うので助かります」「たまごや牛乳が届くのが待ち遠しい」「田代島に住むことを考えている人もいるのですすめてみます」などの声をいただいている。

22

共同購入の商品は環境に配慮しています

共同購入では、メンバー一人ひとりが環境について考え、環境保護に積極的に参加できるような商品企画を提供し普及に努めています。メンバーの利用でCO₂削減に貢献する「エコバナナ」の企画を毎週実施、精肉やしいたけなどトレーを使用しない商品作りも進めました。また出来るだけ簡易包装にすることで資源の節約にも取り組んでいます。

◆共同購入に関する詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www2.miyagi.coop/delivery/>

くらしや教育に役立つ情報を提供しています

共済・サービス事業

もっと! やさしいCO・OP共済 《たすけあい》

2010年3月1日より、CO・OP共済《たすけあい》は、メンバーの皆さんの願いと生協で働く職員の思い、そして、たくさんの加入者が集まって「加入条件のゆるやかなJ1,900円コース」が誕生しました。加入者は160,764名、共済金のお支払いは、116,164万円になりました。(10年1月20日現在)今後も加入者を増やすことでよりよい保障内容を実現していきます。

飛躍の1年となった ライフプランニング活動

LPA(ライフプランアドバイザー)の講師力が向上したこと、生活文化部との連携が充実したことによって、ライフプランニング活動はより飛躍した1年になりました。特に「くらし見直し楽習会」は74回の開催で延べ700名、金銭教育(おこづかいゲーム・金融商品ゲーム)では、18回の開催で延べ300名の参加がありました。講演会などすべての企画を合計すると、100回3,427名のメンバーがあらゆるテーマで活動に参加しました。

◆くらしのサービスに関する詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www2.miyagi.coop/oyakudachi/>

●くらしに役立つサービス事業

サービス事業とは、各専門業者と連携して、メンバーの生活に役立つさまざまなサービスを提供する事業です。

学校部/学校用品協会

学校・先生方に役立つ情報の提供

みやぎ生協では、毎年度「COOP授業に役立つ学習ガイド」を県内小中学校に1500部配布しています。このガイドブックは学校での総合的学習などの授業で役立つ、みやぎ生協の産直、環境、食、福祉などの活動などのさまざまな情報提供することを目的に発行されているものです。

2009年度は職場体験・実習(58校)、職場見学(2校)、食育体験店舗ツアー(14校)や環境・ユニセフ学習などのビデオ貸し出し(26校)・添加物オレンジドリンクキット頒布(42校)・教育講演会・教育講習会(84校)などで延べ200件の受付をしました。2010年度さらに内容を充実させて、ご案内を行います。



くらしに役立つさまざまなサービス事業

■サービスセンター

生協車検は、車検の収益から1台につき100円を「COOP緑の基金」へ寄付する活動を続け、環境に貢献しています。2009年度は3,577台の車検を受注し、募資金額は357,700円になりました。毎年、「こ～ぶの森」の植林活動の場で行なわれる募金贈呈式には、提携車検工場の方々も参加しています。また、車両のリサイクル部品の推奨も行い、315点の利用がありました。

■住まいのセンター

2009年度は、工コ商材のお勧めを強めて、増改築から修繕工事まで約2,750件対応しました。その内、CO₂削減の効果がある二重サッシやペアガラス(あんみつガラス)、太陽光発電などは186件の利用がありました。



ライフプランニング活動は
飛躍の1年

4月25日
COOP緑の基金へ募金を贈呈

学校に役立てられている宮城県学校用品協会の教育助成制度

みやぎ生協子会社の宮城県学校用品協会の「教育助成」が毎年さまざまな教育研究活動や授業などに役立てられています。2009年度は、以下の教育助成を行われました。

①教育講演会講師紹介・教師対象: 24件・PTA: 38件
・児童生徒: 8件

②教育実技講習会講師派遣・講師紹介・教師対象: 3件児童対象: 鍵盤ハーモニカ講習会217件・リコーダー講習会・演奏会246件

③単一校研究活動助成

県内小中学校93校に助成(助成金総額301万円・1校2万5千円~5万円)

この選出にあたっては、各地区校長会で地区予算に応じて地区内から申請された学校について審議して助成対象校を決定しました。



2009年 登米地区校長会
単校助成交付式

◆学校部/学校用品協会の詳細は、こちらからご覧になれます。

<http://www2.miyagi.coop/gakkou/>

お取引先とのパートナーシップも形成

お取引先との連携強化と公正な取引の徹底を確実に進めています。

公正な取引の徹底

「公正な取引の徹底」はみやぎ生協の事業活動にとってもっとも重要なものであると同時に、お取引先に対する最大の責務です。私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(独占禁止法)の第19条(不公正な取引方法の禁止)及び、一般指定第14号(優越的地位の濫用)に抵触するような優越的地位の濫用は、決して行いません。

このことを徹底するために、店舗商品部、共同購入商品部では職員に対し、定期的に教育や指導を行っています。

方針を聞く会

毎年6月、お取引先の中から選任された「呼びかけ人」が主催する「みやぎ生協の方針を聞く会」が開催されます。これは、お取引先にみやぎ生協の新年度の方針をご理解いただき、よりよきパートナーシップを形成していく一助とすることを目的としています。

1982年にみやぎ生協が設立されて以来続いている会で、2009年度の方針を聞く会にはお取引先約800社、1,100人の参加がありました。



6月23日 江陽グランドホテルで開催された「方針を聞く会」



1月14日 裸参り



5月17日
青葉祭り

いずれも日専連仙台とともに参加しました

店舗・共同購入関係の方針を聞く会

みやぎ生協全体の方針を聞く会に先立って、店舗や共同購入部門ではお取引先様に対し、具体的な事業計画を説明し、また、お取引先からもご意見やご要望を伺うための会を開催しています。

各部門の事業計画をご理解いただくことで、「お取引先様に信頼されると同時に、公正な取引の徹底につなげること」がこの会の主旨です。

県内各団体との連携

宮城県協同組合こんわ会に参加、環境保全運動や第一次産業を守る運動に取り組みました。その他「宮城県産消提携推進協議会」、「食品の安全行政をすすめる懇談会」、「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城」などに参加、関係団体とともに多くの活動を展開しています。

日専連と共に、青葉祭りに初めて参加、仙台大崎八幡神社のどんど祭裸参りに昨年に続き参加しました。

機関運営とコンプライアンス経営の仕組み

法令遵守・改善制度

職員が法令遵守等に関する声、意見などを直接通報できる制度(2003年9月開始)●第1の通報先…「虹の電話」(総務部内に設置)への通報●第2の通報先…顧問弁護士に対する通報

- ①「声」を寄せた職員の秘密は守られ、また「声」を寄せるにあたって“正当な理由で情報が真実であると信じて”いる限りにおいては、その職員はいかなる不利益も受けすことなく保護されます。
- ②生協では寄せられた「声」は調査し、匿名以外は申し出た本人に対して必ず調査結果を返します。

内部統制構築への準備

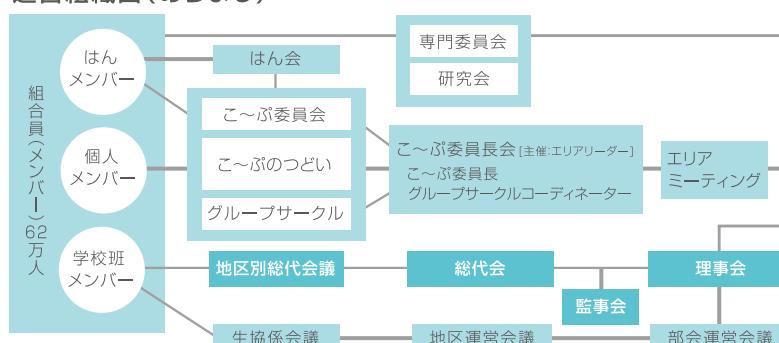
会社法の改正により企業は内部統制システムの整備が義務付けられ、改正生協法では主として機関運営ルール(ガバナンスに関する規定)を従来の「民法準用型」から「会社法準用型」に大きく転換しました。そのことによって、代表理事、理事は善管注意義務に基づき、内部統制システム整備の義務を負うことになりました。

外部によるチェック・指導

みやぎ生協が行う諸活動や事業は、下記のような外部によるチェック・指導を受けています。

- 公認会計士(会計処理、財務報告の適正化と監査)
- 顧問弁護士(法務の適正化、訴訟対応、職員からの直接通報の受付)
- 産業医(職場の安全・労働衛生状況に関する調査・指導)
- 监事会(決算、理事の業務執行の監査)
- 環境監査委員会
(環境活動に対する、学識経験者・メンバー代表・監事による監査)
- 外部環境審査(ISO14001認証機関による審査)
- 宮城県による指導検査(生協法第94条による)

運営組織図(あらまし)

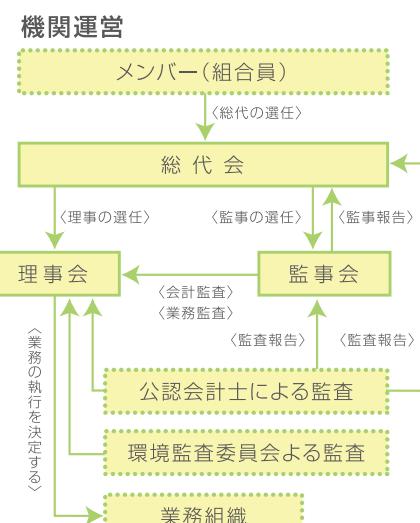


監事会活動の強化

決算や理事の業務執行状況の監査だけではなく、監事自身による事業所の調査や所属長へのヒアリング、理事会前の代表理事との定期協議、他生協のコンプライアンス経営の調査など、監事会活動を一層強めています。

また、2009年度総代会では、法定員外監事(生協法で選出が義務付けられた監事)を選出し、監事会機能をさらに強める体制を整えました。

これを受け、「メンバー(組合員)の暮らしを守り、信頼をより高める」ことを一層高い次元で実現していくために、内部統制システム整備方針を2010年2月25日に開催した理事会において議決しました。2010年度は主要課題の一つとしてこの取組みを進めていきます。



2009年度決算概要

店舗・共同購入・サービス事業全体の決算状況

供給高は、1,012億円。前年比1.8%のマイナスで、予算を15億円下回りました。節約志向が強まるなか、利用単価の下落などが顕著でした。しかし、経常剰余金は、昨年の16億6千万円の赤字から、1億6千万円の黒字に転換することができました。

各事業別の経常剰余金は、店舗事業が14億7千万円改善し、予算を達成しました。共同購入事業も2億9千万円増加し、13億6千万円の実績で予算

を達成しました。サービス事業は、利用者減の影響が大きく予算は達成できませんでしたが、99百万円の黒字でした。経費は、物件費・人件費合わせて前年より1.5%削減し、経常剰余金達成につながりました。

出資金は210億1千万円となり、昨年より約1億5千万円減少しました。

組織概要データ

みやぎ生協の組織概要

メンバーア(組合員)数	614,869人(前年比102.0%／県内世帯数比67.8%)
出資金	210億10百万円(前年比99.5%)
職員数	7,915人(正規888人、パート・アルバイト6,710人、嘱託316人)
供給高	1,011億72百万円(前年比98.2%／店舗738億円、共同購入255億円、サービス18億円)
主な事業内容	生鮮品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業(店舗・共同購入)文化サービス事業・福祉事業
子会社	(株)コープフーズ東北、(株)宮城県学校用品協会、(株)コープトラベル東北、(株)パティオ西多賀、(株)コープ総合サービス、(株)コープエステート
主な加盟団体	日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

メンバー(組合員)数、はんメンバー数、はん数の推移

項目	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
期末メンバー(組合員)数	571,662	586,536	602,920	614,869
年間増加数(人)	18,507	14,874	16,384	11,949
宮城県世帯数比(%)	64.6	65.7	67.0	67.8
期末はんメンバー数	141,050	138,551	138,265	138,787
年間増加数(人)	▲ 2,313	▲ 2,499	▲ 286	522
宮城県世帯数比(%)	15.9	15.5	15.4	15.3
期末はん数	39,855	39,957	40,354	41,029
年間増加数(はん)	356	102	397	675
1はん平均メンバー数(人)	3.5	3.5	3.4	3.4
宮城県世帯数(3月20日現在)	884,689	892,571	900,109	906,925

職員概況表

みやぎ生活協同組合

区分	男	女	計又は平均
職員数	585人	141人	726人
平均年齢	42.8才	36.6才	41.6才
平均勤続年数	19.9年	16.2年	19.2年
パートタイマー・アルバイト一人数	879人	5,426人	6,305人
パートタイマー・アルバイト正規換算数	457人	2,913人	3,370人
嘱託人数	118人	96人	214人
嘱託人数正規換算数	114人	85人	198人

こ~ぶ委員会、メンバーのつどい

項目	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
こ~ぶ委員会	委員会の数	358	359	359
	委員人数(人)	3,429	3,410	3,288
	委員選出率(%)	80.1	80.3	77.4
こ~ぶのつどい	初夏の参加人数(人)	12,612	13,004	12,764
	初夏のこ~ぶのつどい出席率(%)	19.7	19.1	18.6
はん会	秋の参加人数(人)	13,120	12,351	12,502
	秋のこ~ぶのつどい出席率(%)	20.2	18.0	17.4
	春のはん会開催率(%)	23.2	22.2	21.1
	秋のはん会開催率(%)	21.1	20.5	19.0

関係団体等出向者含む全体合計

区分	男	女	計又は平均
職員数	732人	156人	888人
平均年齢	43.7才	37.1才	42.5才
平均勤続年数	20.5年	16.7年	19.8年
パートタイマー・アルバイト一人数	913人	5797人	6710人
パートタイマー・アルバイト正規換算数	478人	3124人	3602人
嘱託人数	157人	159人	316人
嘱託人数正規換算数	148人	133人	282人

(注)パートタイマー・アルバイト正規換算数は月173時間を1人として換算しています。

環境への負荷をかけないように、そしていい環境を未来につなげていくために。

環境理念・環境方針、環境マネジメントシステム

環境理念

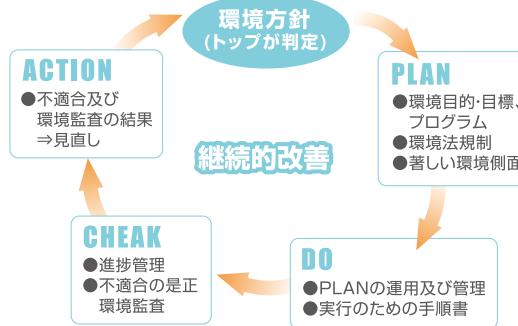
みやぎ生協は、メンバー(組合員)と職員の活動や事業における取組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

- 1.みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、事業活動、商品、サービスが環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境マネジメントシステムとパフォーマンスの継続的な改善・向上を図ります。
- 2.みやぎ生協は、環境関連の法律、規制、条例及びその他の受け入れを決めた要求事項(協定書など)を順守するとともに、必要に応じて自主基準を制定し管理を進めます。
- 3.環境汚染の予防に努めると共に、みやぎ生協の事業活動及び商品、サービスの環境に与える著

環境マネジメントシステムの推進(PDCAサイクル)

1998年度にISO14001認証を取得して以来、PDCAサイクルに基づくEMS(環境マネジメントシステム)を構築して運用しています。



◆環境に関する取り組みの詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www2.miyagi.coop/about/kankyou/>

しい影響を特定し、以下の課題を中心に環境保全活動を行います。

- ①低炭素社会構築に向けて「みやぎ生協温暖化防止自主行動計画」を制定し、CO₂排出削減の取り組みにつながる諸施策を進めると共にCO₂総量での削減を検討します。
- ②循環型社会構築に向けて、一般廃棄物の削減につがる値引き廃棄口商品の削減や、廃棄物自己処理システム(リサイクルセンター)による廃棄物の再資源化と食品リサイクル率の向上を図るとともにレジ袋と商品の容器包装の削減を進めます。
- ③メンバーと共に環境に関する学習の普及啓発や、生物多様性を維持する環境保全活動を進めます。
- 4.定型教育、部内報、事業所毎の会議等により、職員に対する教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環意識の向上を図ります。

この環境方針は、生協内外に公表します。

制定日 2009年6月26日
みやぎ生活協同組合 専務理事 宮本 弘



CO₂排出量をはじめて 前年度より削減できました

店舗事業の新規出店による事業所エネルギー増加や、共同購入事業の拡大にともなう車両燃料の増加などにより、CO₂の排出総量は増加傾向にありました。が、省エネ設備の導入や日常の省エネ活

動を推進した結果、省エネの取組みによる削減量が上回り、CO₂排出量を前年度よりも削減できました。

- 2009年度のCO₂排出総量は41,982tと前年度44,138tより2,156t（前年比95.1%）削減できました。
- 2007年度のCO₂排出量43,754tに対しても1,772t（07年比95.9%）を削減することができました。
- 温対法に基づく温暖化防止自主行動計画で設定している供給高1億円あたりのCO₂排出量も、前年度から1.6t/億円削減でき、42.2t/億円（前年度比96.5%）でした。

全事業所での省エネの取り組みと合わせ、店舗では空調、店内照明のルールを徹底し電気使用量を管理するための監視機器を36店舗に設置しました。この結果、電気使用量は前年度比96.6%となりました。

共同購入部では車両燃料由来のCO₂削減の

取り組みとして、配達コース等の地図情報をパソコンで管理し最適な配達ルートの設定を行う「電子地図情報システム」を導入しました。店舗の廃食油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料（BDF）の運行も継続しています。

2009年度CO₂排出量

項目	使用量	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)
電気	79,554,556kwh	30,072
A重油	1,113,350ℓ	3,017
灯油	390,949ℓ	974
都市ガス	55,312m ³	117
LPG	614,114m ³	3,742
ガソリン	187,751ℓ	436
軽油	732,728ℓ	1,923
LPG(車両)	122,476ℓ	206
軽油(車両)	569,758ℓ	1,495
合 計		41,982
排出量t-CO ₂ /1億円		42.2

環境に配慮したエコストア作り 太陽光発電設備を明石台店と塩釜栄町店に設置しました

低炭素社会をめざし再生可能なクリーンエネルギーである太陽光発電設備を2店舗に導入しました。設置店舗は、塩釜栄町店（出力70kW）、明石台店（出力50kW）で2010年2月19日と20日より稼動開始しました。2店舗の合計出力は120kWと全国の生協の中では最大となります。今回の取組みによるCO₂削減効果は年間で約50tとなります。



太陽光発電店内表示モニター



太陽光発電パネル

環境に配慮した省エネ機器を新店と改装店舗に導入しました

■新店の市名坂店（2009年6月開店）に、様々な省エネ設備を導入し年間で60tのCO₂を削減しました

LED照明

建物外部看板照明や店内天井照明の一部、また冷凍陳列ケース照明の一部に、低消費電力のLED電球を採用。LEDを採用している店舗は今までありますが、店舗の全体に採用するのは初めての取組みです。

高効率ランプ

店内スポット照明には高効率のランプを採用しました。

オーバーキャノピー照明

冷ケースの照明は棚1段ごとの照明に代わり、上からまとめて照らす方式で明るさを保ちながら電球数を減らした「オーバーキャノピー照明方式」を採用しました。

人感センサー

冷凍陳列ケース照明はお客様が近づいた時だけ点灯する「人感センサー」を取付けています。

オール電化

作業場は電化厨房としました。空調機器も電気式ヒートポンプを採用したオール電化を実現し、CO₂削減をはかっています。

冷凍食品ケース

冷凍食品ケースには冷気を無駄にしないよう、ガラス扉付のリーチインケースを採用。



環境への取り組み表示（市名坂店）



ガラス扉付のリーチインケース

■店舗の改装を行う際にも省エネ機器の導入や既存機器台数の見直しを行ない 年間で438tのCO₂を削減しました

最適制御システム（エコストア）

年間を通して冷凍機が効率良く無駄な運転を行なわないように周辺温度や庫内温度をセンサーでモニタリングし冷凍機圧力を自動コントロールするシステムを導入しました。

マルチ式インバーター冷凍機（エネグリーン）

冷ケースの負荷に合わせ複数台接続が可能であり、無駄な電力を使わない冷凍機制御システムの機種に変更しました。

最新型冷ケース

効率の良い庫内循環ファンモーターを採用し、

エアーカーテンの効率改善、高効率照明ランプへの交換を行いました。

冷ケース照明

冷ケース照明は「オーバーキャノピー照明」を7店舗に採用しました。



最適制御システム・マルチ式インバーター冷凍機



オーバーキャノピー照明方式

レジ袋有料化を6月1日より全店で実施し、レジ袋を大幅に削減しました

29

ゴミ削減・資源節約の取り組みとしてレジ袋の削減を目指し、1990年からレジ袋節約スタンプの付与、1999年にはマイバスケットを導入など、マイバッグ持参運動を進めてきました。2007年6月には住民団体、自治体、事業者の3者が一体となったレジ袋有料化実験が仙台市内の幸町店で開始され、その後、実施店舗を拡大し、2009年6月1日に県内全店舗でレジ袋の有料化を実施

しました。この結果、メンバーさんのマイバッグ持参率は2008年平均58.0%から2009年平均85.5%と、レジ袋の削減が大きくすみました。



2009年度マイバッグ運動とレジ袋有料化による効果

マイバッグ持参率(%)	85.55
レジ袋削減枚数(枚)	51,143,786
CO ₂ 削減(kg-CO ₂)	1,227,451
原油換算(l)	705,784
「緑の基金」繰入れ(円)	2,220,417

①削減されたレジ袋枚数を原油換算すると705,784l（200ℓドラム缶で3,529本）になります。

②有料レジ袋の販売代金の一部は「緑の基金」に繰り入れられ、「こ~ぶの森」等の植林費用にあてられます。

店頭のリサイクル品を拡大しました

メンバー（組合員）から店頭で回収していない容器包装（透明トレー等）の回収品を拡大してほしいという声や、家庭から出るゴミの削減のため、事業者（生協）として出来ることは何かを検討してきました。その結果有価物として再資源化ルートを開拓し、2009年6月21日から全店舗で店頭リサイクル回収品を拡大しました。実施にあたっては「環境デー」取り組みとして、メンバーと職員が連携しながらお知らせ活動を行い、リサイクルの取り組みが大きく前進しました。

新たに回収対象としたものと回収店舗を拡大したものは以下のとおりです。

各種トレー及びトレーの透明なフタ

①一部のレンジ対応トレーを除き、ほぼ全てのトレーを回収対象としました。

②2008年11月から容器包装材の見直しを行い、生鮮品売場（農産・水産・畜産・惣菜・寿司）で使用するトレーを可能な限り回収できる素材に切り替えました。

③回収量は、140.3tで前年度比141%となりました。

PET製の卵パック



①紙製を除く、PET製の卵パックを全て回収としました。

②回収量は、29tで前年度比292%になりました。

ペットボトル



①今まで仙台市内の全店舗及び仙台市以外2店舗（計28店舗）で回収していましたが、全店で回収出来る様にしました。又、ラベルも回収し再資源化（ペットボトルのラベルはつけたままで回収可）としました。

②回収量は、89.2tで前年度比141%になりました。

ペットボトルのキャップ



①今回より新たに回収対象としました。

②回収量は、4,056kgでした。

③回収益は全額ユニセフへ寄付します。

この他に、アルミ缶、紙パック、乾電池も今までどおり回収しています。



店頭リサイクルコーナー

みやぎ生協リサイクルセンターの取り組みと成果

2006年8月に稼動したリサイクルセンターは、当初計画した通りの安定した運用となっています。

1、リサイクルセンターでの食品残渣

（野菜・果物クズ）回収量

みやぎ生協全店舗の農産部門から出る生ゴミのうち、野菜・果物クズを分別して回収し、リサイクルセンターで堆肥化し販売しています。

■食品残渣（野菜・果物クズ）の回収量は811.9tと前年807.3tに対して、4.6t増の100.5%と上回りました。

■野菜・果物クズの回収量を増加させるために、各店の農産部門に分別排出の呼びかけを行いました。

2、堆肥生産量

■食品残渣（野菜・果物クズ）から生産した堆肥量は141t（前年159t）と前年度比89%でした。

■生産方法で堆肥の切り返し日数を10日・2週間・3週間と実験を行ったり、バックブレンダー（戻し堆肥）の分量を1対1・2対1と乾燥上がりの含水率を計測しながら調整を行い、堆肥の含水率を26%～32%で推移する取り組みを行った結果、発酵状態が良くなってきました。

3、堆肥出荷状況

「JAみどりの」へ70t、「田尻エコベジタブル」へ9.6t、その他に5tの計84.6t出荷しました。

4、みやぎ生協の堆肥からできた農産物

■産直ふるさと米

①リサイクルセンターの堆肥を産直ふるさと米の产地である「JAみどりの」へ販売し田尻地区でもみがら等を加えて肥料成分の調整を行い「産直ふるさと米」生産の水田5haに使用されました。

②2009年秋に、この堆肥を使用した「産直ふるさと米」ひとめぼれ22トン（5kg約4000袋）が収穫されました。2010年6月1日からの「環境月間」に「産直ふるさと米」地域循環米ひとめぼれ（仮称）として、5kg/袋での発売を予定しています。

■野菜類

①「田尻エコベジタブル」へ出荷（販売）し、その堆肥を使用した「とまと」約12t（5月～9月）、「茄子」約6t（6月～9月）を、店舗の旬菜市場で販売しました。

リサイクルセンターで回収し有価物処理又は産廃処理物の内訳

種類(再資源化の内容)	処理量	前年	前年比	備考
ダンボール(古紙)	5969.6t	6143.6t	97.2%	有価物
チラシ(古紙)	3899.1t	3428.2t	113.7%	有価物
模造・雑誌(古紙)	230.0t	216.1t	106.4%	有価物
牛乳パック (コアソシロール)	201.1t	202.8t	99.1%	有価物
発泡スチロール (プラ原料)	184.4t	204.0t	90.3%	有価物
魚腸骨 (飼料・肥料)	322.8t	410.0t	78.7%	有価物
卵パック (PET原料)	29.0t	9.9t	292.9%	有価物
野菜・果物くず(堆肥)	811.9t	807.3t	100.5%	堆肥 (回収量)
廃プラ(固体燃料)	176.3t	190.0t	92.7%	産廃 (高炉還元剤)
鉄くず	8.5t	7.9t	107.5%	有価物
廃蛍光管	3.4t	4.6t	73.9%	産廃 (原料化)

メンバー活動による環境保全の取り組み

マイバッグ持参のお知らせ活動を行いました

ゴミ削減・資源節約のためにレジ袋の削減をめざし、有料化実施店舗が拡大される度に、該当店舗でこ～ぶ委員や環境分野の専門委員会が職員と連携しながら「マイバッグ持参」のお知らせ活動を行いました。レジ袋削減の普及・啓発の大きな力となりました。



マイバッグ持参のお知らせ活動（古川商店）

店頭リサイクル品拡大のお知らせ活動を行いました

店頭でのリサイクル回収品を増やしたことにより回収率が向上しました。ペットボトルキャップも回収し、回収益は全額ユニセフへ寄付されます。リサイクル回収品拡大の普及・啓発を店舗での「環境デー」取り組みとして展開し、メンバーと職員が連携しながらお知らせ活動を行ったことで、リサイクルの取り組みが大きく前進しました。



リサイクルボックス

リサイクル回収品拡大お知らせのチラシ

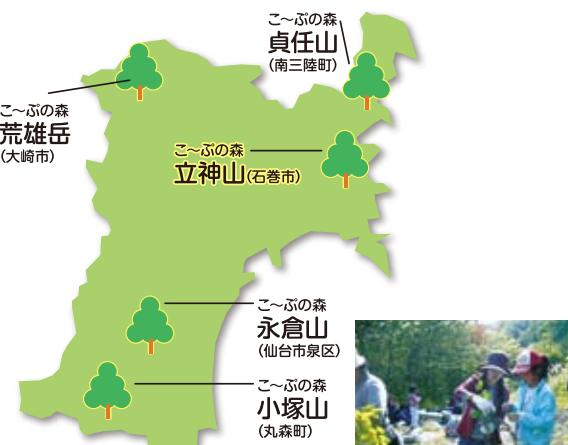
こ～ぶの森の活動がひろがりました

アルミ缶の売却益やメンバーからの募金などをもとに「COOP緑の基金」を作り、県内に広葉樹の森を広げる活動を1992年から行っています。これまでに19.15haに42,839本の苗木を植林してきました。

県内5番目の「こ～ぶの森貞任山」で4月25日(土)に140人の参加で植林体験会を開催し、ヤマザクラ、クリ、コナラなどの多種類の広葉樹を植林しました。

こ～ぶの森の活動にはキリングループなど協賛企業や生協車検からの募金協力の支援を頂いています。2009年度分の募金贈呈式を植林体験会の折に行い、参加者のみなさんに、これからも共に森づくりの活動をすすめていくことをアピールしました。

●こ～ぶの森の森林状況



2010年4月24日
“こ～ぶの森”神行堂山(しんぎょうどうさん)が
6番目として誕生しました。

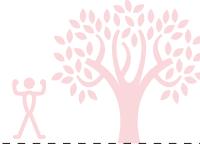
永倉山ツル切り体験会
(切り取ったツルでリース作り)

身近な環境を調べました

身近な環境を調べることでくらしの見直しをすすめる活動として、1991年から「宮城県内の酸性雨一斉測定」、1992年から「水辺の観察と水質測定」を行っています。酸性雨測定(6/11～7/10)は2,194地点(昨年2,139地点)で、水質測定(7/1～8/25)には834人の参加で168地点(昨年

943人、123地点)で測定が行われました。

酸性雨一斉測定は2009年度で終了することから、まとめの会として「19年間の測定活動から見えてきたこと～そして明日につなげるために」を、測定当初からご指導いただいている北條祥子氏(尚絅学院大学生活環境学科教授)を講師に、1月25日(月)



にみやぎ生協文化会館ウィズで開催し、53人の参加がありました。これからは省エネなどの実践活動を行っていくことを確認しました。

水辺の観察会は「青下ダム・秋保渓谷」(参加21人)と「丸森不動尊公園」(参加23人)で行い、安全な水辺の楽しみ方や水質測定を行いました。



酸性雨一斉測定活動まとめの会



秋保渓谷での水辺の観察会

「冬の省エネ！チャレンジ」に取り組みました

みやぎ生協がすすめている「省エネエイト」の実践版として行った「2008年度電気ダイエット(電気量削減)に1年間取り組もう」の取組みから、冬季は暖房機の使用で電気使用量が増えること、冬ならではの省エネがいろいろ工夫されていることがわかりました。そこで、エネルギー使用量が増える冬こそ、これまで寄せられた省エネの工夫を活かして、家庭から排出されるCO₂の削減する「冬の省エネ！チャレンジ」に取り組みました。

活動へは、1,232世帯の参加があり、全体で2,797kgのCO₂を削減することができました。



「冬の省エネ！チャレンジ」
取り組み用紙、省エネヒント集

エコポイントの交換を地球環境保全に活かされている 「COOP商品券」に交換できるようにしました

みやぎ生協では、収益の一部をMELON(財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク)に寄付を行う「MELON協力COOP商品券」を発行しています。

MELON協力COOP商品券は、売り上げの0.5%がMELONに寄付されます。



みやぎ生協の環境活動の歩み

2009年	•全店48店舗でレジ袋有料化を実施 •店頭リサイクル品目の拡大(透明トレー・フタ、卵パック全品、ペットボトルの全店回収とボトルキャップ) •太陽光発電システム2店舗に設置(明石台店、塩釜栄町店で120kwの性能) •ISO14001の4度目更新	2003年	•非発泡スチロールトレーの回収を開始 •仙台市の紙回収の設置協力を開始
2008年	•レジ袋有料化を47店舗中35店舗に拡大 •共同購入車両にBDF車を4台走行 •カーボンオフセット商品ECOバナナ、飲料自販機、アイス、エコ車検の売上金の一部を「こ～ぶの森」への植林に募金	2002年	•廃プラスチックの再資源化を開始
2007年	•レジ袋有料化実験開始 •メンバードに「電気ダイエット」を広め環境省の「一村一品・知恵の環作り」県大会で入賞・共同購入車両にBDFを利用 •「こ～ぶの森」支援自販機を開始、募金・省エネ対策として「見えタロー」の導入 •ISO14001の1年次サーベイランス(10年目)	2001年	•店舗魚腸骨を自販機紙コップの再資源化とたまごパック回収を開始
2006年	•リサイクルセンターの稼動・省エネ対策としてESCO事業の導入・レジ袋無償配布中止実験の公表 •共同購入にディーゼルハイブリッド車を新たに5台導入 •仙台市クリーンベーバー登録店に登録・肉端材の再資源化開始(23店舗)ISO14001の3回目の更新 •粗大ゴミの硬質プラ、スチールを再資源化開始	1999年	•共同購入のチラシリサイクルを開始 •マイバスケットを導入開始
2005年	•廃食油の一部をBDF燃料へ再資源化 •仙台市エコニコ事業所に全事業所登録	1998年	•ISO14001認証取得し、みやぎ生協の環境活動を総合的に推進 •ペットボトルの回収を開始
2004年	•温暖化防止自主行動計画を策定・レシート記録紙の再資源化を開始・マイバッグ持参デーの開始	1995年	•LPG車の導入を開始・環境報告書を作成し公表
		1994年	•コピー紙などの再資源化を開始 •廃職油の再資源化を開始
		1993年	•ニカド電池&ボタン電池、クリーニングハンガーの回収再利用を開始 •みやぎ環境とくらしネットワーク(MELON)設立
		1992年	•アルミ缶、発泡スチロールトレーのリサイクルを開始 •二酸化窒素の県内調査と水辺の観察測定活動を開始 •「こ～ぶの森(植林活動)」を開始
		1991年	•酸性雨の県内調査を開始 •「COOP緑の基金」設立
		1990年	•レジ袋節約スタンプの取り組みを開始 •牛乳パックのリサイクルを開始

事業活動と環境のかかわり

エネルギー資源、水資源		
電力	7,955 (8,125)	万kwh
ガス	66.9(75.9)	万m ³
水	48.8(48.9)	万m ³
重油	1,113(1,223)	kℓ
灯油	391(398)	kℓ
ガソリン	188(184)	kℓ
軽油	733(724)	kℓ
車両LPG	122(152)	kℓ
BDF	10.6 (5.5)	kℓ

※()内は前年の数値

◆地球温暖化防止自主行動計画を策定し、
温暖化ガスの削減に努めました。

- 09年度は、新たに太陽光発電設(50+70kw/年)を2店舗に設置しました。
- 09年度計画した軽油車両からBDF車両への切り替えは、BDFプラント業者の計画延期により10年度の取り組みとしました。

入口

みやぎ

◆事業で使用する容器包装の削減に努めました。

- レジ袋の有料化を全店で実施し、年度末で87.2%まで向上しました。
- 商品の容器包装を再資源化できる素材への切替を行いました。
- コピーカウントの削減を行う取り組みによりコピーカウント料(▲580万円/年)の経営的改善を行いました。

主な資材の消費

<容器・包装材>

レジ袋(紙袋含)	14.9 (77.5)	t
ロールポリ袋	49.3(46)	t
包装紙	10.4 (8.2)	t
簡易包装紙	3.5(1.1)	t
PS(発泡)トレー	146(160)	t
PS(発泡)以外のトレー	192(135)	t
ラップ	51 (64)	t
その他のポリ袋	197(137)	t

<紙類>

コピー紙	101.3(121.8)	t
コピー紙以外の紙	6,125(5,165)	t

入口

店舗

48店舗

共同購入

10支店・家電センター
富谷SC

(株)コープフーズ東北(CFT)

魚センター・ライン
肉センター・ライン
豆腐・ライン・揚げ・ライン

(株)コープトラベル

〈大気及び河川への排出〉

事業上排出されるCO₂: 40,487 (41,518)t/CO₂
 ※委託車両除く
 B O D 排 出 量: 0.4t (0.7t)
 (コープフーズ東北)

〈廃棄物〉

廃棄物の排出量(再資源化以外): 4,193.8t(4,803 t)

■環境会計

- ◆環境保全コスト投資額: 1億390万円(1億1,322万円)
投資の主なものは、太陽光発電設備、エコアイス、調光システム等の省エネ機器導入費等。
- ◆費用額: 3億4,563万円(3億9,634万円)
費用の主なものは、大気汚染防止のための保守点検比や廃棄物処理費、廃プラや廃食油、魚腸骨等生ごみの再資源化費等
- ◆環境保全対策に伴う経済的效果(有益): 3億0,887万円(3億4,500万円)
廃棄口品の削減や再資源化品の売却費等

■環境に関する法規制等の義務は、24項目あり適切に管理しました。

■環境に関するご意見は39件でした。

主な意見・事例報告など	件 数
レジ袋有料化連絡及びマイバックなど	17件
再資源化(現在回収していない物の回収希望など)	12件
環境配慮商品、ゴミ、フードマイレージ等	10件



◆メンバーの協力で再資源化の取り組みが向上しました。

○09年度は、新たに透明トレー・蓋、卵パック容器の店頭リサイクル拡大したことでトレーが141%、卵パック292%と再資源化量が大きく増加しました。

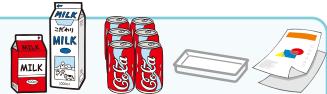
○PETボトルも全店での回収としたことで141%の拡大となりました。

メンバー

生協

分別による再資源化ができる物

【店頭等の分別回収した再資源化量：5,962t】



回収品目	回収量	リサイクル率	再資源化
PETボトル	89.2(63.0)t	36.0%	再生原料
牛乳パック	227.3(225.7)t	104.7%	トイレットペーパー・古紙
トレー	140.3(99.4)t	41.4%	再生トレー
アルミ缶	59.8(51.1)t	32.9%	再生原料
共同購入チラシ	3,899.1(3,428)t	75.6%	古紙の原料
卵パック	29.0(9.9)t	46.5%	再生原料
クリーニングハンガー	35.3(31.0)t	—	再利用
筒型乾電池類	2.9(1.8)t	—	原料化
仙台市古紙回収庫	1,479.1(1,550)t	—	古紙の原料

サービス保障事業

サービスグループ
住まいのサービス
ブリ工案内センター
協済センター
共同保険センター
水事業センター

(株)学校用品協会

車両使用台数

- ・ディーゼル車362(353)台
- ・BDF車5(5)台
- ・ガソリン車153(135)台
- ・LPG車43(54)台

事業

◆事業から発生する排出物を分別し再資源化を推進しました。

○魚長骨は、かつおが不漁のため減少、おからは生産数の減と不良品ロット減の取り組みが進みました。

○リサイクルセンターで生産した堆肥をJAみどりのや産直農家で使用され農産品を旬菜市場で供給しました

34

みやぎ生協の事業から発生する排出物を分別、再資源化を行うことで、前年より2.2ポイント向上し79.3%となりました

※事業系再資源化率=再資源化重量÷(再資源化重量+廃棄物重量)=79.3%(前年77.1%)

※分別再資源化した量:16,176.8(16,203.3)t

紙	1,433.5(1,618)t	古紙に再生
チラシ	3,899.1(3,428)t	古紙に再生
ビン・スチール・アルミ	127.9(129)t	再資源化
発泡スチロール	232.9(265)t	再生プラスチック
ダンボール	7,377.9(7,373)t	古紙に再生
食用廃油	307.1(315)t	インク・ペットフード・飼料原料
おから	1,265.6(1,329)t	家畜飼料
魚腸骨	335.8(410)t	家畜飼料・肥料
牛脂	142.8(165)t	サラミ・油
揚げロス	34.1(35)t	家畜飼料
野菜果物くず	811.9(807.3)t	堆肥化
廃プラスチック	176.3(190)t	高炉還元剤
粗大ゴミ・蛍光管	131.2(141)t	原料化

※食品リサイクル率

み や ぎ 生 協 : 3,023.9t ÷ 4,672.0t = 64.7% (65.1%)

コープフーズ東北 : 1,505.7t ÷ 1,506.3t = 99.9% (99.8%)

※廃家電品排出量(引取り家電品) : 976台(1,562台)

外部環境監査、ISO審査、内部環境監査

外部環境監査

みやぎ生活協同組合

理事長 斎藤 昭子 様

2010年4月24日

環境監査委員会

委員長	高橋 春 男	高橋 礼二郎
委 員	門田 陽 子	豊島 義 一
	庄子 都	
	佐藤 妙 子	北條 祥 子
	鈴木 敏 央	大和 きよ子

当委員会は、みやぎ生協環境管理規程第14条、同環境監査規程第5条、第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】

2009年11月 7日 2009年度上期の環境監査(書類監査、大代店の現地監査)

2010年 4月24日 2009年度の環境監査(書類監査および総合監査)

【環境監査報告書】

みやぎ生協とメンバーの環境保全活動について、取組みが前進したこと、および以下のことは特に評価できる。

1. 省エネルギー関連の取組みにより、CO2排出量の総量を初めて削減したこと。
2. 電気使用の管理の徹底、省エネ機器の導入等により電気使用総量を初めて削減したこと。
3. レジ袋の有料化を全店舗で実施し、レジ袋削減の取組みを促進したこと。
4. みやぎ生協リサイクルセンターの安定的運用を実現し、生産した堆肥を使用した「産直ふるさと米」ひとめぼれ22tが収穫され、6月の環境月間に販売すること。
5. 2店舗に合計120KWの太陽光発電を導入してCO2削減に貢献し、店舗における「創エネルギー」の展望を開いたこと。
6. 地産地消の取組みを積極的に進め、加工食品・酒などの各分野で「地産地消商品」を開発・発売したこと。
7. 店舗生鮮部門の廃棄ロスを大幅に削減したこと。
8. 再資源化を促進するため、店頭におけるリサイクル回収品目を拡大したこと。
9. メンバーが主体となって19年間継続し今年度終了した「酸性雨一斉測定活動」が、社会の地球環境問題に対する認識を向上させたこと。

【指摘事項】

1. 環境方針におけるメンバー活動と事業活動の関わりを整理し、明確にすること。
2. 「社会的にみたみやぎ生協の環境保全活動の妥当性と有効性の監査」という観点から、環境活動報告書に「みやぎ生協温暖化防止自主行動計画」およびCO2総排出量の各データを盛り込むこと。
3. 環境目標に対する達成項目数が前年度と比べ減少したので、その原因を分析し、目標達成に向けて引き続き努力すること。
4. 生物多様性基本法の施行に伴い、環境目標に生物多様性の観点を盛り込むこと。
5. 環境配慮商品・地産地消商品等に関する情報の提供方法について一層工夫し、普及を進めること。
6. 店頭における分別回収・再資源化によるCO2削減効果について、検討すること。

ISO審査

○実 施 日 2009年10月6日～10月9日 4日間

○審 査 員 3名(日本環境認証機構)

○審査結論 更新審査の結果、「組織の環境マネジメントシステムは規格要求事項に適合し有効に実施されていると判断され認証の更新登録が行われました。不適合の指摘はありませんでした。

内部環境監査

○実施期間 2009年7月9日～8月31日

○監 査 員 31名監査16チーム(2人)

○監査所見 数51件、重大0件、軽6件、観察 45件

○監査結果 環境マネジメントシステムがISO14001の規格の要求事項に適合して構築され、適切に実施、維持され適合している。

○そ の 他 内部環境監査員セミナーを開催し、新たに2名養成した。

編集後記

今年も社会・事業・環境活動についてのCSRレポート2010を発行することができました。ご協力いただいた関係者各位に感謝いたします。

社会的に「CSR経営」の重要性が認識され、みやぎ生協でも、2006年からみやぎ生活協同組合の「社会」「経済」「環境」の各分野の取り組みを総合的に公表する報告書の作成をスタートし、5年目となりました。

報告書の発行を通して、さまざまなステークホルダー*の皆様とコミュニケーションを図ることができます。お問い合わせ等も添えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

*ステークホルダー：メンバー、取引先などの利害関係者のこと

総務部機関運営課

■対象読者

メンバー（組合員）、お取引先、生協職員を中心に一般消費者、行政、NPOやNGOの諸団体など、すべてのステークホルダーを対象とさせていただきます。

■対象期間

2009年度（2009年3月21日から2010年3月20日）。

継続的な活動については、期間外の情報も掲載しています。

■対象組織

みやぎ生活協同組合の取り組みを基本としていますが、一部関連子会社等についても取り上げています。

■対象報告分野

みやぎ生活協同組合の社会的活動・メンバー活動を含む、事業活動および環境活動の3分野について報告しています。

みやぎ生活協同組合

CSR Report 2010

社会・事業・環境活動についての報告書

発行日：2010年5月20日（次回発行予定 2011年5月）

発行：みやぎ生活協同組合

〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

お問い合わせ先

- 総務部機関運営課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
- 環境活動に関する詳細は、環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www.miyagi.coop/>

本報告書は、ホームページに掲載、ダウンロードできます。

この報告書は、植物性大豆インクと
再生紙を使用しています。



PRINTED WITH
SOY INK
PIONEER OF ANTI-POLLUTION ASSOCIATION

環境に配慮し、植物性ソイ（大豆）
インクを使用しています。



みやぎ生協は、1998年から全店舗、店舗以外の
全事業所と子会社で環境負荷低減のための
環境マネジメントシステムであるISO14001の
国際認証を取得し、継続して管理しております。

みやぎ生活協同組合 
CSR Report 2010
社会・事業・環境活動についての報告書

（報告書の下部には緑色の横線があります）